

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

特260
720

免許
內門
增補
極秘

觀相神通秘錄

奧義篇

始



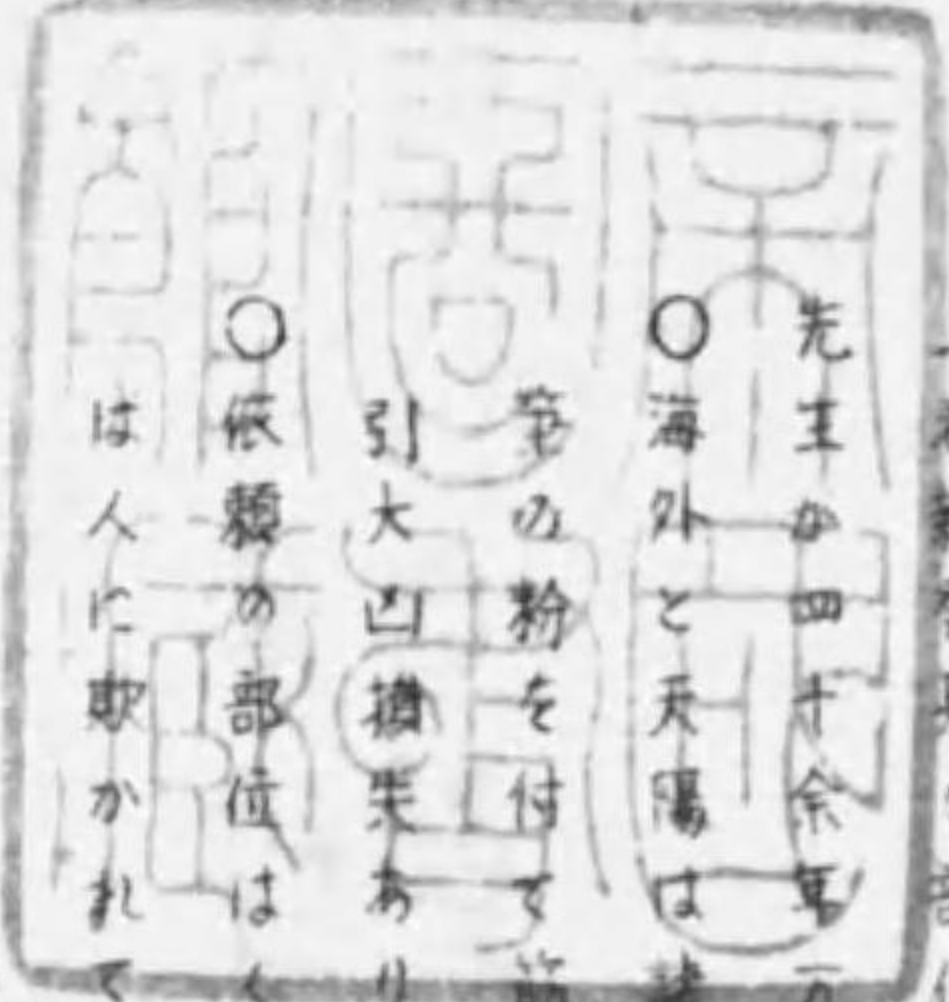
特260
720

目黒玄龍子先生秘傳

内門増補
免許極意
觀相通秘録
奥義篇

東京帝國人相學院版

玄龍子口傳に曰く



上巻新発見の部位は玄龍子の新発見にて他の人相書に有りませんが確的の中は
先王の四十年前に試して悉く的中す事驗して其妙を知られよ
○海外と天陽は諸外國より来るの吉凶を觀す事なり二三才の児の人指、先、鉛
筆の粉を付す筋を引たる如く顯るゝものなり此の如き蒙色が出れば海外の販
引大凶猶夫あり 艶のある美色黄色が出れば喜び又は利益あり吉なり
○依頼の部位は人に依頼したる事の吉凶を觀す色に光澤有は吉此部位に蒙色有
は人に欺かれて損失あり此の部位に蒙色有て警察の部位に蒙色を引けば人に
だまされて警察へ訴へ出るなり

○警察の部位に悪色有は盜難にありて警察へ出る事あり血色の悪悪にて其事の
吉凶を知るべし

○屋外は家の外吉凶を見る處なり此の部位に白点と云ふて白き小き物出れば
家の外に白骨の埋れ有る相此白骨の災ひにて家内に病人不絶事有早く堀り出
し寺に納めて吉なり实例澤山有之共畧す



○書上は惣じて手形証文受印等の事の禍福吉凶を顯す處なり色悪しき時は書物印形の災ひにて意外の損失有黒子疵有る人は一生人の受人等爲すべからず大損失を受る事有候みて吉

○祖宅は生家の盛衰を顯す處なり此の部位に黒子疵有るか肉が落入て凹となる人生家衰ふべし又肉豐満にして血色よき者は生家吉なり

注意 顔落入る者願曲る者思を仇にて返す相也是を云ふにありす祖宅の部位計り障り有る者を云ふなり

○玄武は陰の女の事を顯す處なり此の部位に障り有る者血色悪しき者皆女難あり又黒子疵有る者は女難度々有鼻の黒子も女難有見合て断すべし

右血色は皆艶有る色は吉、光澤なく(ヘガラ)付如き薄黒き色は皆凶なり白色は愁有赤色は争ひ破れあり紫色は損失ありて凶色なりと知るべし。

觀相神通秘録 奥義篇 目次

目黒玄童子答辯録

- 幼年困苦老年榮達の相は如何なる相なるか承りたし……………一
- 先主の仰せらるゝ如き口角の人にして老耄時々失敗する人あり、是如何なる故ぞや……………六
- 右の如き凶相の人にて相応に暮す人あり是れ等は何に依りて左様か承り度し……………七
- 中年四十位迄は相当の人にて老年孤独貧困となる人あり、如何なる相か……………八
- 妻を娶りて貧困となる人あり、如何なる相が何れに有か承りたし……………九
- 妻を貰ひてより仕合宜敷運のよくなる男子は如何なる相か……………一〇
- 右の如き人相の女子を娶らば男相悪しく共運すべきや何ひ度し……………一一
- 結婚する時又は見合の節は女子の何れを見て善悪を知るべきや……………一二

- 婿養子を貰ふ時は男子の何れを見るべきや見合の要求を伺ひ度し……………一五
- 養子となる相とは……………一七
- 弟にして長男の相有人は……………一八
- 職業の選擇法を向ふ・適業も承りたし……………二〇
- 進業を爲して成功する人相を承りたし……………二一
- 相場に成功する人相は如何なる相か……………二一
- 相場して身代を破産する人は如何なる相でありますか……………二二
- 社員及雇人の善悪は何を見て判明すべきや……………二二
- 又悪人は足る事を不知身分に余る剛欲である・足る事を不知相とは……………二四
- 雇人で忠実に主家及會社の爲になる善良なる人相は如何……………二四
- 火難・水難・ケガ・脚難等の前兆を承り度し・又登山の吉凶……………二六
- 水難のある相とは……………二七
- 山に登りて災難ある人は……………二七
- 脚難の相とは……………二八
- ケガ遣ちは……………二八
- 壽命の長き人と壽魚人は何れを判明するや承りたし……………二九
- 短命の人は……………二九
- 凶運の前兆と幸運となる前兆を教へて貰ひたし……………三〇
- 是より衰運となる者は……………三一
- 子供ある男女と子供無き男女の相を承りたし……………三一
- 衰運を挽回して幸運となる良法有は是非承り度し……………三三
- 悪相尙相有る者は一主直らぬ者か伺ひ度し……………三三
- 學生の及弟と落弟の相を問ふ……………三六
- 陰小陽大之秘事……………三七
- 女面の事……………三八
- 男子面の事……………四一
- 妾面の事……………四四
- 遊女面の事……………四四
- 童面の事……………五〇
- 若菜面の事……………五三

○陰者面の事	五四
○衣食住の三つの理にして相法の大事有る事	五六
自己を相する秘傳	六三
神妙十指觀法	六四
輿儀車人形之傳	六六
車人形鑑定真訣	六七
後天之図	六九
先天之図	七〇
六十四卦心意解	七一

目黒玄龍子答辭録

- 門人問ふ 答
幼年困苦老年榮達の相は如何なる人相なるか承りたし
- 門人問ふ 答
幼年何不自由なき人にて老来見る影もなく零落する人は
- 門人問ふ 答
右の如き人相にて相応に暮す人あり是はと言ふ相か
- 門人問ふ 答
中年四十歳征返は相宜の人にて老年孤獨貧困となる人あり 如何なる相か
- 門人問ふ 答
妻を娶りて不運となる人あり 如何なる人相か承りたし

○ 門人問ふ 答

妻を買ひてより仕合宜敷なる人あり 如何なる人相か

○ 門人問ふ 答

又問ふ 右の如き人相の女を娶らば男相悪しく共闘運すべきや

○ 門人問ふ 答

結婚する時見合の節は女子の何れを見るべきか

○ 門人問ふ 答

婿養子を買ふ時男子の何れを見るべきか 礼合の節の要点を承りたし

○ 門人問ふ 答

職業の適否と選擇法を教へられたし

○ 門人問ふ 答

雑業で成功する男相は如何

○ 門人問ふ 答

相場で成功する人は如何なる相か

○ 門人問ふ 答

○ 門人問ふ 答 相場で破産する人は如何なる相か

○ 門人問ふ 答

社員雇人の善悪は何れを見て判明すべきや

○ 門人問ふ 答

雇入て會社主人の爲になる忠実なる者の人相を問ふ

○ 門人問ふ 答

火難・水難・飢難（ヘケガ）等の前兆は如何なる處に出るか承りたし

○ 門人問ふ 答

雲色の大争を承りたし

○ 門人問ふ 答

禽魚き人壽有人何れを見て判断するや承りたし

○ 門人問ふ 答

幸運となる前兆と凶運となる前兆を教へられたし

○ 門人問ふ 答

子供ある男女と子供なき男女を承りたし

○門人問ふ 答

是より衰運となる相ありとも是を挽回して幸運の人となる良法有ば是非承りたし

垂相貪相は一生直らぬ者か何ひ度し

學生が及弟と落弟の相を問ふ

門人問ふ

目黒玄龍子答辨録

○幼年困苦老年榮達の相は如何なる人相なるか承りたし

答

△幼年運しき者は額の肉薄く(ソゲ)たる如く、或は小筋多く皺あるか、又

は皮膚たるみ有 △顔せまく斯くの如き者必ず幼年運悪ろし △大体に於て弟

は額せまく兄は額廣し併し額廣くとも小筋多く皺あるもの幼年運悪ろし △中

停鼻及額骨を云ふ △鼻に肉有て鼻の先豊に(フツクリ)と肉有てたき者

△額骨に上下なく額骨の骨耳の處迄(フツクリ)と高き者は中年の運宜敷

△老運は口脛と頰にあり女は口元小なるが吉 △男は口元縮りて物言ふ時は顔

の割合より火し大なる忌吉 △余りに口の大なる者は男子わ山師的にて身分に

余る大事業を企て △女の口の余りに大なる者は中年運宜敷とも老年運宜敷し

くなる男女共に口元正敷歪まず △笑ふ時口の両角 〽三ヶ月の如く上へ上る

を吉とす言語に失策せず衣食に余り有て老年吉なり △頰に凹みなく豊に(フ

ツクリ)と肉付宜く肉に締り有る者徳義有て老年大いに吉也 △口の両角へ

の字の如く下へ曲る者は言語にて人の悪しみを賈ひ老年凶 △常に男は口縮り

よく吉 △女は白紙三枚程入る位闇て居る者が吉余り堅く口をメ通る女は他家

となりて老運悪し △声に余音有る者は老年必ず為す事成功して安樂なり

地閣肉有て広き者は老年吉

○先生の仰せらるゝ如き口角の人にして老耄時々失敗する人あり、是如何なる故ぞや

答

△其人は必ず眼中悪し、眼付悪しき者は生涯足る事を不知、欲に限りなし身介外の欲有り △此の者必ず声清よからず △声清からざれば心清からず人相は心相が大切なり善心有ば善相となり悪心有ば（スグ）眼にあらはれ夫より人相にあらはるゝ心が素にて心相を知らんとせば、初対面の節に我が心の感じが大切なり △何となく身体が暖かく感ずる人は必ず福相なり壽命もあり子供もありて老年吉女は子供あり △身体が何となく寒さに思われる、男は福分も壽命も無き孤獨の相なり女子も同じ事なり鼻の頭に肉魚々興りたる者眼付熱敷者は生涯山氣絶へず身分に盛衰たへず老て辛苦困難絶へざる人なり

○幼年より何不自由無き人にて老年見る影もなく零落する人は如何なる相か

答

△幼年宜敷者は頸に肉（フツクリ）と豊に廣く有て正敷者は幼年何不自由なく △中停鼻頸骨悉敷者は四十才より五十才迄に失敗する △中停悪しきとは鼻に節何か或は曲りし者又は細く肉なく瘡の跡の如き穴有る者黒子疵有る者又は鼻の先下向へ居て（タカ）の口はしの如くなる者皆中年悪しき運氣である △老年の運は鼻より下食線の辺肉薄く淋しき者 △口の締りなく常に口を開て居る者 地閣ソへだる如き者又は後退する者は菩提心無く祖先を不祭不任心の人なり故に老運衰へ不仕合のみ続きて家運衰へ老いて見る影も無き（ヘルンベ）の如き運氣となるべし

○又問ふ 右の如き凶相の人にて相應に暮す人あり是れ等は何に依りて左様か 承り度し

答

△石の如き凶相の者は百人の内一人も老運ある者なし。併し十人の一人位は有之。△其者は額の皮膚厚く面皮惣体う皮膚厚し(面相者天運)又此の人は足る事を知りて他をかへりみず自分の業を専心正直に勤く人なり故に凶相有共老運あり。△眼中何となく發らしく見よる者老運あり。△法令の筋深く通る者。△一業に熱心にして他の業を思わず故に終に成功し。老年安心の相となる。△一相ありてヘルンペン(一)とならざる相は。△面部の皮膚厚き者。△齒の長き者。△正直なる者。△声清きもの。△愛嬌有る者。△口締り宜敷者。△右一相有ばヘルンペン(二)と運は零落せずと知るべし。

○中年四十位迄は相當の人にて老年孤獨貧困となる人あり、如何なる相か

答

△面皮湯上りの時の如く皮膚光る者。△眼下淚堂よく共人中有也△子供に縁無く老運悪しくなる。△此の如き皮膚の人にして額及他油うかみ(ヘヌラ付)

如き類の人は中年迄は相應の福分有て暮し居るが元来子供に縁無き相にて貰ひ子致しても子供早世して我が世継とならず終に孤獨となりて貧困又住居定まらずと知るべし(ヘオヒンツル)様の如くツル(一)と光りし面皮の者を云ふ。
 △女子の靦骨張りて男の如く成る者。△背中肉薄く大骨の露凹みて溝を為す者。
 △髪のもぬけ上りたる者。△山根なきが如く低き者。△ドラ声の者。△なき声の者。△右の如き女子は皆老年患し。△美顔の女子は多くは子供なく四十才以上となれば運気悪しく老て困苦する女である。△男女とも下停食祿口元地聞淋しき者は皆悉く老運悪しくなり貧困で辛苦する人なり。

○妻を娶りと貧困となる人あり、如何なる相か何れに有か承りたし

答

△平常考へて居る様な男は妻を迎へて破産する程の悪しき運となる。女も陰氣通而塞ぎ勝の女は夫を持つて不運となる。△妻妾宮(一目尻の處を云ふ)に肉凹みてくぼくなり二本の指を入れて平になる様な男は妻を娶りて不運となる。△妻妾宮に肉高くなりて居る人は妻を貰ひて運あしく妻縁度々変わるはげ有る

も同じ △女子顔の割合に鼻の小さき女子を妻とすれば運氣悪しくなり其の夫
生涯出世未ず △鼻の細き短かき女を妻とすれば其夫仕合かたむく △山根
の低き女を妻とすれば運悪しくなる色悪しきはい色の黒子有者も持病ありて凶
△白眼の青き女は肝積強く子供なく夫の運を損ず △顔色青味有つて皮膚の
（カラ）付如く（キメ）悪しき女子は多病にて夫の仕合かたむくべし

○妻を賞ひてより仕合宜敷運のよくなる男子は如何なる相か

答

△此の相は多くは女子の相の善悪に依る者多し △然れ共男の相の善悪にも
依る事なり △男の妻妾宮に肉の高低無く 豊にして疵黒子痣胎穴なき男子に
して此の妻妾宮色艶よき者 △鼻の山根肉有て色艶よき者 △天停と印堂の色
よき者 △右一相有れば皆美婦を妻とす △女子の顔と鼻の（ツリ）合宜鼻の先
にフツクリと豊に肉有りて山根も（フツクリ）として黒子疵黒く低からず余り
高からず鼻直の鼻の女は良き夫に縁有りて已れ又夫を助けて運氣よくなる、此
の如き女は嫁して後夫の運氣よくなり自分も又無病にて何不足なき身分となる

△山根宜敷は男女共無病である △女子の仙骨宜敷は良夫を持ち夫を助けて
運氣よくなる女子である △仙骨は圖を見て知るべし △天停と印堂に常に潤
色有る女子は良夫を持ち又夫を助ける賢婦である △身体動止共落付有て身体
悪疾無く毛髪に潤ひ有る女子は夫を助けて児女を養育する賢婦である △良婦賢
女は悲観せず狂喜せず樂觀せず作事落付有りて（シトヤカ）なり △此の如き
妻を娶らば其夫、妻の徳と己が運と合して産を為し家を興す

○右の如き人相の女子を娶らば男相悪しく共闘運すべきや伺ひ度

答

△男の人相悪しき時は賢婦良妻子縁有る人稀なり多くは縁なし △若し右の
如き良妻を迎へれば男子の運勢の五割を増し △夫敗する時も妻に依りて夫敗
せず済む事多く △疾病其他の災害も未前に防ぎ以て夫を助け △其他萬事
の事に夫を助けて成功せしむ又児女を教育して家政を納めるは賢婦の常なり

○結婚する時又は見合の節は女子の何れを見て善悪を知るべきや

△良婦賢婦は悉く眼中涼しく里白分明にして △髪潤ひ声清く余音あり △
 身体動止落付ありて △多言ならず眼鼻耳頰骨眉口悉く正敷嶺と曠豊に肉有て
 締有る肉付の女子は有徳なる賢婦なり 女子にして肩張り靦骨高く声男の如
 く力有り又ハ(ト)ラ声の如き女 △皮膚男の如く厚く横張りの顔面の女此の
 如き女子は皆獨り者となる △眼が大きく(パ)ツ(チ)リ過たる女は美人に見よ
 れ共早く夫を尅して若後家となる △孤獨となる男女共だ、常に獨り言を云ふ
 者は平日心に不足多く終りに獨り者となる △顔に小筋多く又は皺多き者も食
 困にして獨身となる △面皮油を塗りたる如く又は湯上りの時の如く(ツ)ルツ
 ル致したる者は子供有りとも早世なし終に孤獨となる △頬の皮(ツ)ペリ
 て火しも皮膚にたるみ無き女は子供なく孤獨となる △鼻に肉無く骨の上に皮
 を(カ)フセたるが如く鼻先尖りて年寄が刀の峯の如く(ス)ルドキ鼻の者は
 生涯足る事を不知山師同然の事をたくみて生涯を送り終に成功せず右ハ男女共
 に同じ △鼻に筋有る者は男女共盛衰多く縁談必ず変るべし △眼の白眼青く
 眼付烈敷くば肝氣強き女にて己と運を破り身を破る縁談も再三破り子供にも縁

なし顔色青白く艶なき女は病身である山根に灰色の如き黒子有る者は男女共持
 病あり多くは胃病なり初縁かわるべし故痴に任せず △左程の事もなきに仰山
 に驚き(サ)ワ(ク)女は淫婦なり △眼中常に水気を含みたる女は淫婦にて家政、乱
 す △流し目に人を見る女 △人を見てスグ笑ふ女も淫婦である △人中曲り
 たる女は子宮もまがり居る也人中に黒子有る女は子宮に疾患あり又子供に付て
 心配たへず多くは不具の子供あり子の諒うすき人なり △上唇より下唇の出過
 たる女は目上を尅す故に夫の縁変る △男の如く肩張り面皮厚き女は夫の縁変
 りて孤獨となる △靦骨高く声(ド)ラ声の如く太き女も初縁かわり子供の縁
 薄すし終に孤獨となる凡て男子の如き骨節有る女は皆悉く後家相にて凶なり
 △男子女の如き声又は舉動有る者は生涯発達をしと知るべし △郎君面と云
 て男子顔形賤しからぬ人にて其声が力なく見合の節下斗り向て人に顔を見せざる
 女は内気なり △鼻の穴横より見よる女実情なく邪悪の心あり向て鼻の穴の中
 が見よる女は心に信実なし △眉毛並よく揃へて余り薄過ぎ厚からず毛並宜敷
 女子男子共學文出来て發明なり △眉毛の中に記陥有りて不揃なる者は男女共
 己れが知恵を廻らして計る者お難に逢ふべし 仙骨山林の辺に高く肉有る男

女は吉男は良妻の縁有女は良夫を夫となす又男女共福貴の相なり △鼻の頭に肉付丸く豊に有りて（フツクリ）こ高く丸き者は男女共心ざし（やさしく）福分多く吉なり女は良き夫に縁有天庭と印堂に常に潤色有ば女子は貴人に縁有男子は希望成るの前兆である △女は自分の鼻の如き夫を持つものである △鼻の宜敷女は良き夫縁あり △鼻の宜敷とは額の割合と程よく鼻曲らず正敷正直にて黒子筋節等なく準頭に肉豊に丸味ありて色善きを吉とす △鼻の形額の割合より大なる女は運氣悪し △鼻の大に太く高き女は氣位斗り高く運氣悪し △鼻の細き女は人の妾となるものなり △鼻小さき女は賤夫を夫となす生涯運悪しく発達なし此の如く額の割合より鼻小さく（ナヨンビリ）致したる女を妻に娶らば夫の運も共に悪くなる △女は身体拳動落付て毛髮潤ひ声に余音有る女は婦徳有りて夫を助ける賢婦にして壽福徳ありて生涯吉也 △歩行さわがしく落付無き男女は任所度々妻り老て貧困となる △腰太く尻もぐく肉付よく（ドツナリ）こ落付有る者は女は後家相なれ共福分有りて獨立して營業を為す男は吉なり △神腰と云ふて腰に力なく身体を振りて歩む女は淫婦にて長命せず男は任所に落付なく貧賤となるものである △結核（ノドダンゴ）の高く


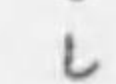

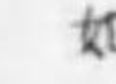


見よる女子は夫を対し獨女となる △常に顔色艶なく青白き女は他人の衰へを喜び其身は多病不仕合である貧困である △見合の節は眼付に十分注意すべし眼付悪しき女も男も必ず心中に毒あり悪心あり縁談必ず棄る △又目の（パツ）致したる女は美人に見よれ共子供に縁薄く早く夫に別れ若後家となるものである注意すべし

○婿養子を貰ふ時は男子の何れを見るべきや見合の要点を伺ひ度し

答





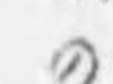


△第一に眼中を見るべし眼付の剛強なる者は必ず家産を破る △額廣く肉の（ムツクリ）高き處有る男子は必ず家産を興す他人の上に立ちて家運をあける吉相である △眼は黒目勝にて黑白分明に交らしく見よる者は人に無理なく家名を興す △應對の時に目を大きく（ギョット）聞く人あり親に不幸又必ず家産を破るものである △眼は細長きが吉なれ共此の眼の人にて何となく（イヤラシキ）眼付をする者は心奸にして邪悪なり △流し眼に物を見る者は男女共不兼の淫を好む心中正しからず △人を見る時目玉の下の白眼が見よる者は己

を高ぶり目上の人を尅し家を破る  目玉の上下共すがざるが吉  此の如下の
 ずく人凶なり外見を張り心中実意なし  目尻に此の如き筋有る人は妻を尅し子
 供を尅し心中に実意なく冷酷の人なり  △應對の節眼はたき多き人は虚言あり
 臆病なり  △眼に落付なき者は心に落付なく生涯浮沈絶えず  △役者藝人は眼
 の大なる者吉商人其他の人は皆破産すべし大凶也  △肩肘を張り威張りし如き
 形体を為す者は決して榮達なし  △時として口を尖らし火を吹く如き口付を為
 す者は心中欲心深く自分勝手の人なり老て貧困となる  △又常に口を開て居る
 者生涯榮達なし口は常に閉して居るか吉也  △笑て口の両角上へ向へ上り三ヶ
 月の如くなる人大々吉老年益す御運氣よし  △舟をふせたる如き口の人言語
 で失策す又老年貧困となるへ口への字の如くなる者を云ふ人に惑まるる人
 ある  △口の形は四の字の如くなる者が吉又口は常に縮がよく目立ず物云ふ時
 聞て大なる者は老運ありて吉なり  △鼻の頭肉なく尖りて肉無き者は山師の心
 ありて終に成功せず生涯心くくむ事多し  △鼻に黒子有る男は女難にて大困
 難する女子は夫に付て心配をへず  △鼻の曲りし者は右へ曲れば母の縁うすく
 又女難にて身の失策あり左へ曲れば父の縁薄く山氣不絶 △鼻の細き男は生涯

榮達なし鼻の短かき男子は養子となる  △鼻細く髪濃き男子は意くじなく生涯
 榮達なし  △眼骨比々上りた々下る男は人を使ふの徳なく人に使わる  △頭
 がこけてへ祖定の部位がへコミ  凹となる者は恩を仇にて返す又老て貧困なり
 △ 顔の比の如く後退する者は生家に住せず恩を思わず菩提心なく奴隷の
 子孫もしたがわらず老年貧困の人なり  △物言ふ時眉毛を動かす者親族に縁なく
 目上に背く人なり

○養子となる相とは

答

△耳の中の齧出でし者  △眉と山根の中間に小瘡ほくろの跡の如き欠陥有る者へ
 ツより三ツ迄を  取るべし  △印堂の肉凹て他き者眼小鼻耳に大小有る者又上
 り下り有て不同の者  △鼻の頭に欠陥有る者へ但し鼻の頭の小さく肉穴は四十
 八才前後に大夫敗有  △又鼻の肉薄く骨の見よるか如き者他家を継ぐ但し心に
 一物ありて物をはかる  △眼のくぼき者田宅腫たる如くなる者他家を継ぐ奸淫
 にして不義を為す必ず老年破れあり鼻先の小才有此共知なし  △右一相ありて

も必ず他家相續を爲す

○弟にして長男の相有人は

答

△長男に勝れざる徳有りて親族の上に立つ此の者を養子と爲せば養家歟し養父母に孝にして老て益す吉也 △長男の相とは心常に落付て萬事急がず △命宮に肉有りて耳の聾不出 △眉毛直よく火し薄き方 △頤に肉多く有りて(下停(フツクリ)と肉付豐なり △此の相ありて眼付よく声音(ハツキリ)致したる者は必ず發達うたがいなし、此の相有りて命宮に黒子疵なく艶ありて肉くばまず眼付眞敷人は必ず出世發達なし人情厚く徳分多く慈悲心あり幸運なる人である △才格の大小に不依声に余音ある者は老年幸運である △身体大なる人でも声小さく女の如き者声小なる男子は皆凶なり △額廣く眼耳鼻口共に障りなく觀骨肉有て程よく高き男子は富貴成功の人である △上唇の短かく縮みてはね上りたる者短命にして發達なし △常に鼻の頭の赤き男子は足る事を不知任所不定して度々勤く金は一時ありとも子孫は零落する △耳の辺に痛

の有る者は初め富み四十以上より運氣衰ふべし △タン無く唾なきに(ハク)事烈敷(くせ)有者は一時富むとも後衰ふべし △鼻をヘクシクシと云ふくせ有る者も初め富み後衰ふべし △瘦たる者は頂の長さが吉短かき者は孤獨で食である △肥たる者は頂の短さが吉長き者は不仕合なり △首の前に付き折たる如く見よる者發達せず首は眞直なるが吉也 △人を見て笑を含む男子は發達早し吉也 △應對の時に何となく其人の顔に見着し有るが如く感する人は悪人なり物言ぬ以前の感じが的中すべし △鼻の穴横より見よる者は心中常に一タクミ)有る多くは悪事を心掛るものである △鼻登へて高き者は氣位高く必ず養家を破る又目上に背く △眼中に瞳睛の區別ぬき者は鳥獸魚虫の如し必ず己が屍をさらすものである △此の如き目は鳥獸魚の目なり △人は △此の如き眼にて晴白腫の區別判然とあり △魚鳥獸の眼の如き人は難に逢ひて死体を道路に(さらするのである △目尻の左右を妻妾宮と云ふ男女共に同じ妻妾宮に疵黒子有か肉付(ヘコム)か又は高過る者は縁談度々変るべし(ハゲ有る者四五人も縁談變るべし △又鼻の根元山根が折れたる如く凹みたる鼻の根本である人は一生不仕合なり凶を見て知るべし △見合の節は眼付と十分注意すべし眼

と心は同一なり眼患しきは心患しく限の光り(をたやか)なる人は心も(オダヤカ)なり △声の(スラ)出でて余音有る人は心に毒なく成功する人である △声濁る者声に力なき者 △物言ふに声の(ハツキリ)せぬ者 △破声と云ふて破れたる大敵の声の如き者 △女の言語の如き男子は皆発達せぬ者である

○職業の選擇法を問ふ 適業も承りたし

答

△業務の選擇法は第一に脳を見るべし頭に悪骨なく頭脳は肉コブが有る程宜敷 △額の肉豊に(フツタリ)と有る者俗に云ふ(オデコ)の者は男女共に物覺えよろしく此の相ありて眉毛の並善く揃へて厚からず薄からず但し眉毛の薄き方がよし此の相二つ揃へ有ば頭脳を遣ふ業務に適したる人故發明家醫師學者銀行家法律家官吏其他何業を問わす高尚なる職業は皆成功する相である △右二相有つて其上眼中涼しく(ハツキリ)致したる眼を持つ人は萬人の上に立ちて名を顯すの吉相である

○雜業を為して成功する人相を承りたし

答

△雜業を成して成功する人相の人には毛髮太く(ハリ)致して馬の毛の如く太とし △手の指短かく想じて身体手足共に骨路粗雑の人 △眉毛不揃にして荒く濃く黒く濁墨色なり此の如き者は荒き職業を為して成功す筋肉勞動又は商人ならば石屋土屋砂利屋薪炭等を賣買が吉 △臍人ならば大工左官請負業其他何なりとも荒き業務が吉なり

○相場に成功する人相は如何なる相か

答

△諸相場に成功する人は(デッブリ)と肉付たる榮養質の人に多し △神氣常に落付喜怒哀樂も左のみ心に掛けず一見愚なるが如くなれ共相場にわ成功する人である △仙骨常に潤美の色有ば我が思想が適中する △仙骨が油を塗りたる如く汗ばんだる如く △又は鉛筆の粉でも付たる如く薄黒き時は必ず相場

に失敗する △智愚に依らず印堂と準頭と仙骨の色善き時は相場が的中する
是を三光と云ふて何事も調ふの吉相である(四)を見て仙骨印堂の部位を知るべ
し △此の如く三光の色有りて耳の色顔の色より勝れてよく眼中の瞳に縮りて
有は是を三光五澤と云ふて相場に限らず何事も運気よく進みて功有又相場が成
が思ふ通りに的中すへし

○相場して身代を破産する人は如何相でありますか

答

△第一仙骨に艶なく曇り又は油が浮みたる者 △鼻に赤色の出たる者 △福
堂色悪しき者 △小鼻に血点有る者 △顔色油ざりたる者 △顔色煤けたる如
く光澤なき者 △鼻の頭毛穴が見へて(一)も穴が此の如く見よる者右虎相有
は皆相場にまけ失敗に終ると知るべし必ず家産を損ず疑ひなし百発百中也

○社員及雇人の善悪は何を見て判明すべきや

答

△悪人は皆眼中に有と知るべし △眼の上下共に白眼見よるは是を四白と云
ふ大いに悪心あり召使へ大凶必ず人の害を為す悪人である △眼付悪しき人必
ず心悪ろし眼付宜敷者に悪人はなし △眼下白く(スク)者は必高ふりて油断
ならず人を見下げて目上を尅す △眼の上が白く(スキ)黒眼が下へ下る人は
心中を人に打聞ず油断出来ざる悪人である △應對の時眼を特別大きく開く人
親に不幸又自身家を破るべし △應對の節其声ねば付如く律義に聴よれ共其人
無量のたくみ有奸曲にして人を計る注意人物なり △人と應對の節横を見て相
手の人の顔を不見横向で物言ふか下向て物を言ふ者は虚言を云ふ信すべからず
△呼ぶ時速かに答る者は利口なり然れ共其人に取れ入り度か會社に雇われ度
か金を借り度時は返事速なり △此の時其人の声に力有か其声丹田より出でて
確と答ふる者は正直にして運もよき人なり △悪人と奸曲なる者は声音スラス
ラと不出多くは作り声なり △應諾遅く淡る者は鈍物にして用いたらず心奸曲
にして片意地なる人也 △身体肥へて大きく観骨に常に紅色有 △眼付流し目
に人を見る者心不正にして婦女子の難絶へざる相なり又他人の妻と奸通する
△表を飾り偽りを云ふ此の相にして苗並よく切り餅を(ナラべ)たる如くよ

く揃へたる者大凶相にて偽りて人を賣り主人目上に背き公法を犯し故郷を亡命す甚だ恐るべき悪相なり此の者言語やさしく其為す事婦人に似たり一物を見る時心有りげに物を見るものは必ず悪人にて大難に逢ふ大凶相なり

○又悪人は足る事を不知身分に余る剛欲である ○足る事を不知相とは

答

△眉太く濃き者常に盗心あり △女子の如き声音の者 △又女子の如き骨節の者 △火を吹く時の如く口を尖らす者 △虚榮を好み外見を張る者 △人中鬚なき者 △鼻の頭に肉をくみりたる鼻の者 △面皮紅色にて薄き者 △眉を動かす者 △腮骨出張り過たる者 △人は誰ても十金を得れば二十金を得んと思ふは人の常なり然れ共右一相有は身分に應ぜざる剛欲にて不義不正の財を得んとす故に虚言も云ふが盗心も出来て主人の金でも公金でも遣ひ込む油断出来ざる人物である注意すべし

○雇入て忠実に主家及會社の爲となる善良なる人相は如何

答

△黒眼がちにて視るに癖なく正しく眼中慈愛を含みたる者 △眼下淚堂に結りたる肉有者 △此の肉腫たる如くなる者子供なし此の肉色善く締る者陰徳有りて君には忠・親には孝・他人には信を以て交る必ず主人の爲を斗る忠良の者なり △声音(ハッキリ)して清く余音有者心正直にて自分も運よく老て成功す △鼻の頭に肉豊に凡く(フクリ)と致したる者は人に信義あり主人にも忠実なり △交際しても人に不実を為さず △第一は視力目を見第二は声を聴き第三は鼻頭の肉村を見て人を雇ひ社員を採用すべし △俗に云ふ(ヘダング)鼻の人は大いによし徳有人情もあり福あり主人には忠実なり己も成功すべし △常に心着付て顔の肉多く豊にありて尖らず曲らず地閣正敷ば老年運あり社員となりて忠実なり △但し顔に疵黒子有者目上に背く主人に背く注意 △口の(此の如く両方がへ字なりに下る者と下唇の上唇より出過る者は言語にて人に嫌われ言葉にて失策す使用して後悔あり外交員は大凶なり御注意ありたし

○火難○水難○ケガ○劔難等の前兆を承りたし又登山の吉凶

答

△火難の相は種々人に依りて異なるものである △故に一定の者と思ふべからず △其人の身体に落付なく田宅と云ふ處に皺が出て愁容なる形相となる者わ火難の前兆である △福堂が煙りの如く曇りたる者も火難がある △俄かに面部が赤くなり又俄に粉の付たる如く白くなりたる時も火難がある △左りの眉の上に赤点が出れば工場か別宅が焼ける △地閣に赤点が出れば火に驚くの難あり又住所に心配有 △眉毛に掛りて赤氣出るも火難の前兆である △仙骨に雲色出れば三時間以内に大難がある(雲色とは薄黒き色が出て(スグ)消へる(消えると又二分)たゞぬ内に又々出る此時は十分注意して難をさける考を為すべし △法令の筋に掛りて雲色が出れば商賣上にて大損失がすぐ有皆三時間以内に来ると知るべし △汽車の中にて他人の仙骨を見て此の雲色が見へたら早く汽車を降りて難を免るべし百発百中の中すべし

△此の雲色は(ホテルの尻の光るが如く消てはスグ出 △出ては消へる願

面の何れに出る事もあり指の先にて(エンジン)の粉を付たる如く薄黒く出る二分間位にて(キエ)又二分間位にて出るなり是を何べんも出たり消たりするものである

○水難の有る相とは

答

△水難の有る人は何人でも口の廻りが薄く黒くなり △又鼻の穴より赤氣出でて口に入るも水難がある △女子腰より下の冷えし時の如く薄黒く又紺屋職人は常に口の廻り冷えて黒し是れを取るべからず

○山に登りて災難ある人は

答

△男子は左の仙骨雲る △女子は右の仙骨雲りて(エンジン)の粉の付たる如くなるべし必ず登山すべからず 大難ある前兆なり

○劔難の相とは

答

△鼻に一寸以内の切り疵有者一生涯の内一度劔難有 △眼中血走り眇黄ばみ眼の腫濁る者三日以内に劔難有 △歩行疾が如く眉を動かし歩む者一生の中に一度の劔難有 △齒小さく白くよく揃ひたる者も一生に一度劔難有 △背高く細そり致したる人にて手の指疔かき者一生に一度劔難あり △顔に白苞出て眼神落付ざる者癡狂して己と身を損ず

○ケガ過ちハ

答

△眉毛の中に針の先で引かきたる如き赤筋出れば手のヘケガ一する △鼻に細き赤筋出れば身体力ヘケガ一である又法令に細き赤筋出れば足を疔ける前兆である △髑骨に赤筋出れば人と争論する △尻をヘケガ一する △眉毛の廻りに肉が豆つぶ程の高さで凸出する者は怒ると命不知にて前後の考へなく人

をヘアヤメル狂人である故注意すべし

○壽命長さ人と壽無人は何れを見て判明するや承りたし

答

△長命の人は身体手足共暖氣有^が如^く又^は^は^は^は有^る應對の時^は火々屈するが如くヘカガム^レが如し此人必ず短命である又孤獨である △耳の中より毛の出る者は長命の前兆である △老て咽喉に滌と云ふてヘタテシリ^レがつまみ上げたる如く立つ人は未だ長命する人である △四十才頃より眉に一本長さ白毛か出る人も長命である △鼻の下のみぞ人中と云ふ此の人中の長さ人も長命である △法令長さ人壽命永し △神氣強きは必ず長命である △耳の裏の骨堅く高さ人長命である △髑骨の骨耳の根元迄通る者長命である

○短命の人は

答

△短命の人は眼玉突出しまの短かき人短命である △身体肥へて氣の短かき

人短命である、鼻の脇の筋法令と云ふ法令の筋短かき人短命である。△上唇短かき者短命である。△口中深く見よる者短命である。△耳の後の骨柔弱にて無き人短命である。△歩行するにヘヒユユ／＼と足の地によく付かざるが如く見よる者短命である。△肩より身体寒むさうに感ずる人食にて短命である。△壽の切れたる人は後より見て勢ひ無く行くに影をく紙藁の如くヘフハ／＼として足元が軽く確と地を踏まずして歩行する者は壽の切たる人にて一年以内に死去すべし。

○凶運の前兆と幸運となる前兆を教へて貰ひ度し

答

△吾人が関運に向ふ前兆は顔の血色が悪しく耳の血色が顔色より宜敷なる。△一寸顔色を見ると日焼致したるが如くなるが善く見ると印堂より天中迄際立ちて艶の有る血色が登るなり。此の顔を暫く見つめて居る心ちは朝日の出る時に向ふて居るが如く吾が心も自然と安らかに感ず此の血色出る者はより大関運する前兆である。△印堂と耳の色と仙骨と宜敷人は関運す是を三光と云ふ此如

き血色有て其上眼の瞳締り年寄色よき者は大に吉是を五澤と云ふ運氣よろしき相である

○是より衰運となる者は

答

△顔一面に油の付たる如く上光りする者持に顔に油を塗たる如く見ゆ又汗の出て居る時の如く上光がする。△此の如くなる時は何事も不調運氣悪しくなる。△顔色宜敷見へて耳の色が悪しく(ネズミ)色となれば是より運氣悪しくなる。耳が(シナベ)たるが如く勢ひ無き色となれば是より運氣悪しくなる。△此の人に向ふて顔を見て居ると西に入る日に向ふ如く吾が心中漸次淋しく感ずるなり是れ凶運に向ふのである。△面部一体があか付く如く仙骨雲る者現在運重しき人である。△口の廻りが泥色となりしものは乞食となる前兆である注意すべし。

○子供ある男女と子供無き男女の相を承りたし

答

△鼓皮面と云ふて鼓を張りたる如く頬の皮引張りし如く見よる者男も女も子供に縁なし △面皮のへツルくして上光りする男女は子供の縁なし △福皮面と云ふて頬の皮へミカンはだにて滑らかにして皮膚光りへ又ラ付の様に見よる者子供無し △此の者赤ら顔にて至極又又に見へて億病者である此の者子供に縁なく貰ひ子しても子供不育走て孤独となる又貧困である △郎君面と云ふて器量宜敷賤しからぬ者あり然れ共声に力なく眼に勢ひなく愚にして一生孤独なり(是を一名部屋住顔と云ふ)

△童子面と云ふて早世才位になりても児童の如き顔の者あり一生妻子なく考て貧困となる △女子美しく何となく若く見え襟元涼しさうにて暖気なき女子は子供なし △人中子満にて満ちき者子供なし男子は子に縁なしと知るべし △眼の下肉多く袋の如くへハレタル如く肉が有り過而へタレル如くなるは子供なし此の肉は締りて有ば子有て吉也 △にわ鳥の兩に遇ひし時の如く肩に勢ひなく淋しき形の者老て子供に縁なく孤独の者となる又貧困なるべし △子供有る男女は目の下涙堂の肉締りよく艶有て色よし人中深く身体落付暖かに感

ずる人は子供あり福分もありて吉人である

△女子拳動落付て喜怒哀面に不顯は賢女にして夫を助く △骨肉締りて毛髪厚過るは宜敷からず又薄過ても運氣悪し毛髪清く氣血清くば必ず子供あり △鼻高過る女は子供を尅して其子力とならず △眼頭の籠宮と云ふ處に薄黒き色有る男女は左に有は長男右に有は長女に縁なく死別する

△男女とも歩行静かに身を振らず行くものは壽あり又財運もあり △木動て葉が散り人動て財散すると云ふ △鼻の元眼と眼の間山根と云ふ處折れるが如く平にて骨肉高からざる者は故郷に住せず兄弟共に運悪しく任所度々受るべし △鼻の頭準頭と云ふ處肉有て丸くへフツクリト豊に艶よき者は男女共実意ありて吉福分もありて吉也

○衰運を挽回して幸運の人となる良法有は是非承り度し

○患相貪相有る者は一生直らぬ者か伺ひ度し

答

△如何なる凶患貪困の相ありとも其者心を改め陰徳善行を爲して我が行狀を

堅く懐み日々の飲食をむさぼらず怒りと言語を懐み有は三年の後は貪相變じて福相となり幸運となる悪相變じて善相となり招かず共仕合なる人となる
 △さて陰徳は耳の鳴るか如しと云ふて己れ一人知りて人に知れず故に馬鹿しくなるべし又三年の忍耐がなくては何にも不成 △人を助け人に物を施して夫を己が口より語るは施さざるが如し可憐は我なり言語なり

其の一例

△或る日人相も服装も賤しからず上流の資格有紳士来りて觀相を乞ふ △予此の紳士を相して曰く、貴殿の人相は母の胎故の懐と陰徳が子孫にむくひ来りて貴殿は一生涯災厄を免かれ健康にて他人の上に立ち福分もありて何不足なき幸福の御方である貴殿のみならず兄弟皆幸運なるべし如何と云ふ
 △其客なる紳士答へて曰く私の母は貧困なる生活を爲し何施しも神福りも出まざる貧乏人故に自分で毎日食する粗飯を一着づつ御膳の隅へ取りぬけて置きそれを家の上へ上げて道端鳥や雀にやり又は猘類に施しやる事毎日忘れず今年八十余才にて未だに毎日実行してをこたらず △夫れが陰徳になりしか、我々は何とも思はず婆さんの道樂と思つて居ました。私の相の何れに其の様な相が

有りますか其れを教へて貰ひ度と云ふ △予か曰く貴殿の耳が誠に吉大に過ぎず小ならず厚くして光澤よし 母の品行 徳、不徳は皆其子供の耳に現わるゝものなり故に貴殿の御兄弟は皆耳が宜敷又御運氣も宜敷かるべしと断す
 △其時客曰く仰せの如く私の兄は縣會議員で相当の地位に居り妹は富豪へ嫁入して子供もあり私は医者にて何不自由もなく暮して居りなる程先生の申さるゝ通り私の兄弟は皆耳がよろしいが是れが母の懐みと陰徳より来たとのことは初めて今日承り母の有難さを感じました哉々子供を育てる時は貪苦に迫りたる由今日は御かげ様にて福嶋縣でも指をりの資産となりました
 △小生又云ふ金円を施すより自分の食すべき物をへへラシテ他へ施す事大陰徳なり是れに勝る大陰徳はなしと知るべし
 △如何なる人でも四十二才頃より腹十分に大食する人は運氣と壽命を損する、長命したくば飲食をへムサボラズ小食が吉 △昔より八分の腹に医師いらすと云ふが △大食 なる者は儘に運が悪しくなり一陰徳を損ず己れ小食なれば己が食ひ残りし米は生物の命を救ふ是れ陰徳の第一也凶相も善相となり貪相も福相に變るなり 予が数十年の實驗なり

○學生の級第と落第の相を問ふ

答

△石の仙骨の血色善ば関西方面が宜敷此相にして印堂赤書血色宜敷は関西方面へ(パス)する

△左の仙骨雲るか薄黒き色有ば東北へ行くべからず必ず落第す癩一面に雲れば萬事不成

△印堂赤書準頭の色善きは及第す仙骨も共に宜敷は東京にても及第すべし此の相有りて眼中の腫跡ればますく吉なり

注意 赤書トハ勇氣ト同部位デアル

向ふ 内門免許秘傳

陰小陽大の秘事親面秘録を詳論せられたし

答 玄龍子曰く

是より陰小陽大の秘事男面女面妾面衣食住の一大事迄不殘説明すべし

○陰小陽大之秘事

答

男は——其相外にあらわれたる物大なるを以順とす又内にかくれたる物小なるを以順とすべし

女は——其相外にあらわれたる物すべて小なるを以順とし内にかくれたる屬みな大なるを以順とすべし

右男子は外にあらわれたる物大なりとは顔手足肩等みな廣くして大也額目鼻口耳鬚骨腮骨等陽に屬する物みな勢ひ有て大也内にしてかくれたる所は腎肉少くしまりて小乳も又小にして足の脛股等みな細くして堅し是天地の順也陰陽の正也男子の常也

又女子は外にあらはれたる物小なりとは顔また手足の先き細く小く肩は狭くして骨不立額目鼻口耳等みなじんじやうに見えて小なり鬚骨腮骨もはり出すみちやさしくして小也又内にしてかくれたる所は腎肉多くして大、足の脛股みな肉多くして大也又乳房大也頭髮長くして多し且陰門児子を出産するの大なる

有かくれかくれたる所大なる事知るべし是天地の順にして陰陽の正女子の常也
女子は其声細くやさし男子は声太く力有べし

是迄外編之部

○女面の事

女面は男子を觀相する時の要也その見やうは前件にいふ所の陰小陽大之常理
に反して外にあらはれたるもの或は小或は柔弱にして精神不立是は女面とする
ゆえん也且陽大男子常しかるをかくれたる所肉多くして大なる者又女面とす
但し是はかねて見る心もち有べしいかにとなれば何事にも先面相を以第一とし次
に衣服きたる座相のまゝにしてあらわれ見ゆる所を專一にとるべし是觀相の主
意大体とする所也万事に此意味わするべからずさて其相をとる處は第一血色と
毛髮と又眉と髭と座相とに有者を最も重しとす其外目口鼻耳等にあらわるゝも
の是に次くべし声之力有魚を取るべし

○面桃花を帯び色白き者は是は女肉と云○又血色忽ち赤く忽ち白く變じ易くして

定まらざる者 又面色常にむら有てつや浮みて声細くやわらかにして猫の毛の
如き者○髮際深き者○襟あし深くもみあげ多くやわらか成る者○髮なき者○髭
薄くやわらかき者○髮濃く剛通たる者は女面の形ちにたかうやなれども其血
氣多く勝て精神を犯すの意味有を以てここに云故に此相の者必決斷薄蕙癡多く
して心意女子の如し○眉なき者○眉柳の葉の如き者○眉毛細く長き者○眉うる
わしく見えて眉頭眉毛ともにしまらざる者○睫毛多き者○額せまき者○人中よ
わき者○海角うるわしく見ゆる者○齒つやすすき通る者○耳稜なきもの○桃花眼
の者○毛穴ちからよわき者○金甲よわきもの○掌のすじ細くきれいなる者○肌
皮白へなめらかなつや有者○すべて陰陽さかひ分らざるもの○座相肩はりな
きさびしき者○くねりて座するもの○しきりに衣紋をつくろう者○膝柔弱なる
もの○脚肉多き者○言語の度毎に笑ふもの以上女面の格いささかその要を揃て
しるす右は百千の資格あるのみな是より生ず深く考知るべし
そも、此女面の男子其性質たとへに女子の如し諸事狐疑深くして事にのぞみ
て決斷なくしかも邪智有て小さき才智にはこり若くお其事遂ざればをのれが失
をかくして人をうらみ人をねたみてそねみみがむの心やむ時なし常に惑にした

かひて迷ひ多くあるは忍ちかほしみてなみだもろき故に情ある深切なるかとも
 是は程もなく打わすれたるか如く恩をわすれ禮義にうとし耳目の爲に心うつり
 やすく花美を好み即切をはかりて永遠の大事を知らず眼前の事にのみ心いそが
 わし語に曰女子小人は養ひがたしと女子小人一口氣にして其さまほゞ相似たり
 さて運勢の大意を推はかるに其器小にして大貴大富に至る事なしたま／＼富
 家に生るといへとも各道にして施す事をしらす貪りてあく事なし故に家僕し
 たかわ才親族遠さかりついで助を失ひて破財に及ぶ或は大いなる破財なきも子
 孫元来縁薄きゆえたとへ子有るも女子にして終に他人の爲に身代を破却する事あ
 るべし又其富貴に生れてたま／＼才智有るも篤実律義の公道を知らず利口をむね
 として身に及はさる山事なんど好むといへとも目下をあわれむの心なき故に終
 に大ひに破れに至但此者童面をかねる物に多し
 又或は貴家に生る、者もをのれに媚ひへつらひて心ゆきわれにひとしき者を
 華用ひ人の異見を嫌ひ大人君子をいみにくみて遠ざけ剥しついにをのれの剥落
 するに至和漢今昔に人の常状也又此の女面の者は見目うるわしき所有てよく人
 に用ひられ見上げられて仕合を得る事有故に度々破りて又々立身する者有也是

唯形ちのうるわしき故のみにて素より本心正しからざる故に終に人にあかれ天
 の時至りて年老ひぬれば人をのつからうとしにくむ故に晩年貧困にせまり或は
 子を賣り妻を賣りて其醜汚不至所なし此相の男子殊に世上に多く男子を親相す
 るの要君子小人を辨別する事是より先なるわなし

○ 男子面の事

それ男子面は女子を相するの法にして是もまた初段陰小陽大男女相反するの
 理を以見るべししかれば其外にしてあらわれたる大なるか剛くちから有か何
 れするどくつよき意味有べし且内にしてかくれたる所大なるべきをへかねて乳
 小腹小腰も、骨たつ等の事有べし但何面によらず尊らあらわれたる所を主とし
 て云ふしかれども又其かくれたる所も理を推して知らずむば有べからず面の字
 はをもてと訓じてあらわれ出るの意味知るべししかも其をもてを見て時とし
 て見分けがたき事有其時ぞのへうらを見ればへおのづから見やすきもの也此理
 何事にも通して用ひべしさてさてその男子面の見やう大かた女面の見やうと異
 る事なし照合して考知るべし

○男子面

○髪こわくして短き者○髪際廣きもの○面あをむくもの○齒の大なる者○法令
紋有者若くして法令紋現る者○唇毛のすりしあとあをき者○目大なる者○鼻
そびえてつよき者鼻目立て高く見ゆる者○腰骨見ゆる者○耳剛き者○又かどな
るもの或はつり上りたるもの○口角ちから有者○金甲はり有者○額骨高くあら
はるる者○頬をちいる者命宮つよくしまりて見ゆる者故に懸針八字紋みな凶と
す又ちからつよくしまるをいむ○柚子面の者○皮あり込る如く男子の如き者○面ま
た血肢ともに青筋をあらわす者○肩いかりたる者○骨太き者○股臂の肉包まご
る者頂太くかたき者○仰向ひて座する者○音聲大力有て大なる者○性急なる者
右男子面骨格の大綱也余は常の男子の骨格を觀て推廣むべし
ともく男子面の女子其断法いかにとへいうに第一に夫を尅し子尅しまたおの
れを尅し生涯のうちたのしむ時火く勞苦艱難多したとへは幼年の内此骨格目立
見ゆる者は早く其父母にはなるべし土をふみ水を荷ひおそくいね早く起て追ひ
つかわれてやもすればいねむるへされば眞ことの玉ならざるよりへいやしき

心に(とまらざるわ(まれなるべし、かくて人みなうやまひ、かしく事なく
何事に付てもうとみへいやしまる、事ひとえに孤子の如し、さて中年に及て
は嫁して夫にしたかふとへいへども西陽並び立ざるの理にして其必要なしとい
へとも自然と夫を尅しあるひは死別し或は其夫病身となり又は貧窮する事有べ
し故に其身みつから夫にかわりて家業を營む者多し且其行狀陽に和するの義な
き故に、常に夫の氣にさからひ夫の心をなくさむる事なきもの也其身艶色薄く
情へ柔かならずして野鄙也こゝを以て其夫愛に引る、事薄く或は遊女狂ひ又は
妾遊び等多かるべし且甚しきに至つては夫が亡命するの急難有べしかくの如き
は老いて孤獨となり物を背負ひて賣あるき或は縁なき所に食客となり甚きは袖
乞するに至る是等男子面の最も下なる者也 又此男子面に上と中との品が有て
も夫を尅し子を尅すの断にをいてはかわる事なししかる氣體氣ままにして歌舞
妓者へ遊藝人など云ものを揚げ酒をほしいまゝにして男妾を愛し家事を乱
して終に衰へを生ずべし又夫有子有もみづから家業のかけ引を好み何事にも差
出る事多し又貪なる者に有てはぬい針糸竹に世を渡るもあれともや以上の女に
有ては大かた針わざを嫌ひ糸竹にうとき者也其情狀猥めこゝに説つくしがたし

といへとも類ひを引義を廣めて推察すべし。義を精うして神に至る者修行道也
常の工夫也

○妾面の事

それ妾面は女子を相するの要其用最も多し詳に知らずむはあるべからず且此
妾面は次の遊女面と見違ひあやまる事多し故に今詳に辨別する事左の如し。妾
とは何そや婦に随従する所以のものにして婦は則妻の事也婢女の中の貴き者也
故に男有といへとも状が夫とする所にあらずたゞ婦をたすけて夫にしたかふ
其理異体にして同用一人の如ししかれば則其相像重陰の義理を以見るべし是は
定説也深く考知すべしへしかれども今時の妾面の者はみな夫にしたかふの心な
く常に口古たへず夫に不足の心有其故に何そや蓋し重陰ついに元ぶり窮まりて
陽に競ふの義ある也

さて妾面の見やう重陰の理を以て見るとはいかなる相ぞとへなれば氣は陽也
血は陰也故に重陰は陰に陰を重ね血に血を重ねたる相と心得べし。故に眼目鼻
耳口齒はぐき髪ゆいさま等右の内必兒どもの如く見ゆる處有是は重陰を知るべ

し重陰とわ陰の凝る處と知るべし凝れば不肖ぞだたざればゆるまづ故に大人に
至り其不肖處有を見るべし又云妾なるものは右の穴處のうち一色二色は必是非
肖者也此相の者たとひ人の妻たりとも慥に妾の相と断じをくべし後年至り必す
妾の品行となる事有うたかふべからず又云是貪の第一也

丸女の相は素より顔せまく毛髪多き者にしてなを又そのうえに髪際深く厚く
重て見ゆるものは妾面の第一義也是血に血を重ねたるにあらずや是故に是を重
陰といふ又一種贅肉なく小さくしまりへらんまりとしたる風俗の女有是妾面の
妾格也是は其かたちもへしまりて血に血を重ねるといふ重陰の理にうたがわし
とへをもふ者も有べし是をたとふるに水は陰也冬季に至り寒氣盛んにして陰氣
いよ／＼凝る時は氷となる則此理也こゝを以て其重陰なる事を知るべし故にすべ
て面の物四肢に至るまでへしまりたる者に妾面有事も心得べし陰陽の理すべて
かくの如き事多し陰は小。陽はつよく。陰はよわしとのみ知りて右の如くをも
うべし又はは姿形ちと見るべしさればよろしき衣裳を着かさりても姉の姿と見
えざるを知るべし妾面の見やうまづ次男面の形ちとをもうべし是は妾面は必ず
次男面に有て惣頰面になしといふにはあらず且其一タイフ容子大たいの形ちを

いへりなほ工夫有べし口傳

又其知りやすき者を學てその目やすをしめす世に人の妾たるもの相を見てなを再三工夫有べき也

○不二額の者○耳大きくやわらかに見えて前にむかう者○まつ毛多き者○黒目がちに見ゆる者○耳前より見えかぬる者○懸針八字○頂小児の如き者○肩すぼくさびしき者○色白く透くやうに見ゆる者○枕骨ちき者○うしろ姿のさびしく見ゆる者○四肢小き者 猫脊の者○崩し鬘むすび鬘を好む女又此かみのゆひごまへよくうつる者○礼服を着て反てあだに見ゆる女○あだに見ゆるとはさひしく見ゆる事とをもうへし○又晴れ着より常服のうつりよき女○各處に見える女凡妾面の女に常に妾の如したるさへねたみぞねみ邪智ふかきは女子の持まえ也しかるを況や妾面に於てをや其心実意なくいやしく僻みて愚癡最甚し世に継子といふ者のひかめる心にさも似たり又利口にわるさかし

又妻は夫にしたかふに義を以てす妾は夫にしたかふに利を以す故に其夫盛んなるうちはかしたつきしたかふといへとも其落目を斗り見てもその夫を助けるの心なく反てわか身仕度には愛悟有自己の利を先にして実意なき事知るべし且妾

は年相応に至れば其夫より金銀衣服等を貰ひて他に縁付事妾の常也是其の妾面の者に再縁する事有ゆえむ也又妾は子有てもへおのれが自由にする事ならず故に妾面のは子にかゝる事あたわずと云也又妾の家風を崩し圖法を乱す事往々にしへより今に至て絶えず其事一々枚擧するにいとまあらず此理もよく知りてくべし故に今妾面の女を妻にむかふれば出入つつよやかなるが如しといへども奴僕に各處なるか故に皆へあなどりしたかわずへしたかわされば是をにくめはいよ／＼したかわずしてへあだかたきの如しかくの如にして何そ一家をさまるものあらむやされば夫の威をかりて萬事心のまゝにふるまう且其性未男に遇るに妙を得たり故に其夫鼻毛長くのびて必益疾を生ず又北鶉のさしり免れがたく全くをぞればき女子也是其最も注意すべき女子なる者也凡人の夫なるものの知らずんば有べからず

○遊女面の事

遊女は別女子を相するの法にして遊女の相を見て其形ちを知るべき事勿論也又前にもいふ如く妾面と見違ひあやまつ事有といふは妾面遊女面何れも女子の

凶相にして其全く妾になるもの、相に似たるものを妾面と云遊女に似たるを遊女面と云しからは妾に似るの相をいかにと云に先此面相の法によれば妾の相は大かた若衆面童面也大抵此二つを不出或は男子面をかねて見るべし初其遊女面と見あやまつ事有わけはいかにと云に遊女の相も又男子面 若衆面 童面此三つの外不出は何れも三面を兼帯たる相なれば觀法をあやまる所以其故なきにしもあらずへしかれども此遊女面と妾面とは血氣の形ち大いに異なる有也其かたいかたとなれば遊女面は血氣の流れて止事なき形ちを主とすべし又或は血氣逆にめぐる形ちを兼たる有又衰をめぐらずしてしうらをめぐるの形帯たるも有此三つの内を以遊女面とすべき也先男子の陰者面と同様也心得て見るべし今その例二三を挙げて左にしめす。

- 肉多く骨小さく見ゆる者
- 命宮しまりなき者
- 田宅廣き者
- 眉毛長くしねりて見ゆる者
- 髮際さびしく見ゆる者
- 山根骨をあらわす者
- 齒の揃うてうるわしく見ゆる者
- 兼たる齒のつや有ていよく目立者
- 法令の筋因外へ流れたる者
- 唇脈曲りたる者
- 髻耳を掩ふ者
- 襟もどさびしく見ゆる者
- 座相曲るもの
- 座で面又肩むね膝頭はり出して見ゆる者
- 口傳
- いまたものいはすして先咲ふ

者○笑て齒ぐきの見ゆる者○乳頭おこらざる者○四肢小なる者○身廣の柳の如き者○美服を着て立派には見えながら底さびしき者美目よく髪も長くつや有人にへおもひつつかるゝ風にて地闊海角あしき者○笑ふて魚くぼの入り○髮際ひからびて見ゆる者○山根せまる者○すべてうるわしきはさびしきと心得べし○笑ふとき法令イヨく外へ流るゝ者○年より乳の小く見ゆるもの○小指すぐれて短き者○座する時物に寄るが如き者○遠目に見てはうるはしく近寄れば何となくきたなくへおもわるゝ者○古をならし鼻をすゝる者○すべて座相しまらず座して五体解けたる如くに見ゆる者○すべて男の劇へ寄りて言古共に恐れず物語者俗になれしきといふやうなる形ち見るべし一度遊女となり死して必無縁となる也是万夫に身をまかせたるを以て知るべし

凡遊女面の者其心淫奔にあらざる者といへども必ずいたづら事に類ひするの行ひ有べし故に必ず男の難有と云且其天度々かわる事有と云も則此理也一夜妻は遊女の常又其夫の人品を見るに大概武家すへて勤をする者陰者長袖の妻となるもの此遊女面に最も多しはその男子の陰者面同様也と云説と合せおもふべし。生涯の運勢先不仕合也しかして不仕合の中に仕合を得る事有仕合なる中に不仕

合来る事有是にて其運勢流水浮萍の如く凶吉とも定りなき事を知るべし其性質狐疑深く迷ひ多きは女子の常なれば是なき事あたわすといへども其心妾面よりははるかに立まさりたる所も有目前の事には各をれども肝心のしめく、りなく見ゆるもの也故に其奴僕などには中々おもひつかるゝ事も有て妾面の万事にめくくりつゝまやかなるよりは反て家争のをさまりよろしき所有也

又一種各番にしてそのする事小くけちにこいかにもとほしく不便に見ゆるもの有此相の者極めて運不出又此遊女面にて藝子團妾茶屋女辻君等なを推して知るべし

さて婦女にして男をまじい言又艱難を慮て貞節を守り再縁の相あるをもよく一人の夫にして終り又藝能にたけ或は悟道に入り道を修する事を好むもの多く遊女面有男子面の事は勿論の事なれどもこゝには兼て見る意味有也但し妾面の女に於ては是てこれをしたとへ貞節の如くなるも心いやしくあるひは はりあひにて義を守る者何れ似非なるものなるべし

○童一面の事

ぞれ童面の見やうは幼童にかたとりて見るへし人生れてより十四五迄を童子とす其容態相貌をかたとりうして見る也故に物の小きと形ちの小きと又物の辰しまりなきと形の辰しまりなきと也此かたち此意味有もの是を童面と云也

凡此童面の者其行状心慮のをもむき人の童子の時の如し勝つ事好み負る事を嫌ひてやゝもすれば人と争ひ競ふ事をなす忍ちよろこひ忍ちうれい火しはかりの事にも驚き又かなしみ人を恨み人にせまり飲食常に節ならずさらり止る處を知らざるもの也故に一大事にのぞみても心取しめなくたのしみ遊ふが如く目前に大憂のをこり未る事をもさらし慮る事なし俗に場知らすと云人物は此童面の人に有て時節も處位も知らざる事ひとえに童面の人の性質なるべし

運勢是に准して諸事取極めたる事なし故に富貴も失ひやすく常に家事取締なければ妻子眷屬増長してあるひはそむきはなるゝに至る事有べし又人の世話事には入魂なれとも反て其人にはかりたまさるゝ事多く損失有へし子孫有ても多くは女子也男子はをひれが力にならすべてこれ程の悪心はなしといへとも止るといふ事を知らざる故に大事を任する時は大患をもちすべき器也女に童面あれは多く流産有事を心得べし又夫度々かわるたとひ子なしとも其子を顧見す離別

する事有或は心にをわさる不義淫事に希るすへて前件のおもむきを判断する時は奇々妙々に至るべし但前にもいふ女子は血氣を主として精神を容とする故女子の童面は苦薄きもの多し故に遊ひ家業の者の内義に多し或は年をけても両親満足にて嫁して後もやれこれと実親の貨を得て仕合なる事有是其旨なる者也しかれとも貞節の操有事なし右童面の者みな運勢あしきとのみすべからず童面にては仕合よき者何程も有へしなれとも其福分をさなき者が大人に愛を受けて玩物をもらひ悦ぶか如く只僥倖にして自身一家を差立て立身する程の事はなき也たとへ福分有る人よりはなり下りたる家業を嘗み世を渡る何れ取分に有へし只童面にして大富貴を顧み人有るも勞して功なく手にとりかたしあるひはたまたま富貴なる家に生るゝとも其人童面なる時は必傾家破財の断有べし心得有べし又一種童面にして最もよろしき者有是は道徳高く才藝秀たる等の人に有べし但童面の見様は小兒の無心にすこやかなる顔色容貌を見て知るべし物事におとろかす水火をも握る事固く終に啼て聲音かれず是等心得て其おもむきを知るべし

○若衆面の事

若衆面の事は男子の歳十四五より十九、廿の頃の風情気味合とおもふべし、故に其意味は童面に類ひする事有しかれとも判断に於ては大ひに異り其類ひするゆえんの者は年齢若冠の時は像想するによりて也其異る所はいかにとなれば若衆面は其男子に有時は女面を兼て女子に有時は男子面の一亦也こゝを以判断童面とちかひ有事を知るべし、然は若衆面の断義いかにと云に先男子に有時は外見をむねとしてむさくじみたる事を嫌ひ諸事いさぎよく勢ひつよき事を好み行ひ義につよく俗に云立て引と云事を好み欲すれども其実は女子の見識婦人のににして大義をなすのうつわにあらず又兵書に小兵美男に大勇剛の者有と是乃ち若衆面也女男に有ても大要如此只男女のたかひ有故にそのおもむきはかわるといへとも其好む所の心底に於てはかわる事なし、たとへは男を擇ぶに温厚篤実なる眞ことの男らしき人を嫌ひ諸事あたまかちに豁達にして肝膈もちと云人をこのむ僻有同氣相とむれば也又一種男夫やしなひすこす事を好む僻有故に骨氣なき柔和なる男を愛す是は義に勇む心有故也此相の者必十才代にして色

情の難有男女ともこの所有べし又情死するもの多く若衆面也を鍛煉有べし

○陰者面の事

これ陰者面は陰者に似たるを云陰者とは何ぞや陰陽師醫師巫書家画家文武の師家其外諸藝奇雑詩連哥茶花鞠すべて音曲の遊藝軍談出家等にいたるまでみな陰者也是士農工商の外なる事知るべし

扱其陰者面の見様如何となればまづしばらく是を天地の氣候にたとへていわんそれ士農工商は世に人なみの人也故に其氣候にして春より夏、なつより秋、あきよりして冬と漸くにして是順運也陰者はしからず反之故に冬より秋、あきより夏、なつよりして春是逆運也故に人に有て血氣逆するの形ち有べし其逆するかたちを以是を見るべし世人夫を仰くかたち有れば陰者は地を見る形ち有人は表陽裏陰なれば陰者は表陰裏陽也人髪薄く髭濃ければ陰者は髪濃く髭薄し人は面黒く体白ければ陰者は毛もて白く体黒し人は骨形、なれば陰者は則骨形方也人は俗也陰者は雅也是を雅し廣めて其かたちを知るべし陰者面なれば陰の家に心を付けてよくノノ味ふべし今豫め悉く云に盡し難し

カテ此陰者面にも又雅俗と上下あり右にも云如くたとへは骨形方なるは陰者の常とすなれとも方也とかどたち目立はよろしからず故に今其例二三を示す

○眉骨高けれどもかた立す○髪脚く多けれどもむさくろしく目に立す○耳はりつよくしてしかも形ちこわくいらつく事なく○眉薄けれどもよく目蓋ひ○山根しまりよろしけれどもつまみたる如目に立す○法令紋あざやかにして深くきめこます○威有やうにてやさしく○采和に見ゆれども近づきなれがたし○眼ほそくやさしく見ゆれとも何となく人射是其上也雅也下と俗とは推して知るべし且陰者と稱ふるものは前に云か如し其かめると云ものは士にして士にあらず農にして農にあらず工にして工にあらず商にして商にあらず是が甚多し○軍師○軍人官吏○閩者○詮議役○かくし目附○蔵司○築園の漢り○御士○大盡と稱ふる高持の農○庭方○植木屋○全魚屋○築堀○髪ゆひ○工はすべて陰者の物を造する蔵方○奥向の用達町人○家主○遊見○山師○辯護士○金貸○書画骨董家○本屋○飛騨屋○風呂屋○デパード主人○引手茶屋○水茶屋石ぞの荒増也コマカニ尋ねはをいか程とも有べし右数業を出付る事は陰者面の人は則此業にと一にあてよと云にはあらず此業の者に陰者面有陰者面に此業の人と唯心に知

り得て陰者面の主意を工夫する事也此事あしく心得て相法断則をあやまる事な
かれ

○衣食住三つの理にして相法の大事有る事

昔衆翁様いまだ御勤役の頃常の通り御袴等も日々相改させりるうちある時
の仰に予は 留御本手筋のはかま花美ならずして着ころもよろしく常に身に相
應して變る 以未左様に存仕立申付候様にとの上意也其節近習衆申上るには、
それはあまり御廉服と存奉る也御身柄には茶室系織の類御定服にて然へくむ
御答申上奉るに候や、歎息したまひさて、予は貪相に生れつきたるものかな
右等の廉服を好み又似合しきのみにて其福分薄きを知るべしと仰云、此候後
に火災の爲に御屋敷悉く失ひたまひ候は其頃御重病にて御長持のうちにてかく
れさせたまへるよし誠に天下の賢相にて御みつからん相をも觀したまひしこそ
殊に有難く御政断の程をもひやられ奉る事なん此御訥語は衣服の事にのみ云
とをもうべからず衣服は寒暖をととのえ身を安んずる爲にして住所も則寒暖の
雨露を防ぎて身を安んずる所食は其うち身に大切にして性命のもと一日もなく

むは有るべからざるもの也此三つ少しも何れか身を安んずるの要たらざるもの
あらんや

○但衣服の事右の御世を本として其人体に相應すると相應せざるを工夫すべ
し男子晴れぎの着かえたる時はいかにも清くいさぎよく見ゆるを上とすべし
女子は何となくにきやかに見ゆるもの吉相也右に反するものみな凶也次にあは
る説を見て其辨を知るべし車力諸工髪結職人の類ひ女はすべていやしきもの俗
に裏店のかゝなどいへるものゝ類ひ其外奉公人みな晴着して反て似合ずうつら
すいかにも不骨に見ゆる也

不骨と云はからだになづまざるやうに見ゆる事也

藝人芝居者の類ひ是は反て常にちり面類の衣服を着してしかも其風俗何となく
いやしく着類其身軀にひつたりと付て瘦たる人のやうに見すばらしくさひしく
見ゆる也是は新しき物を着してよこれたる物を着たる如く見ゆるを云也

是諸人に有て晩年をとろへの相也右藝人等を以手本となし常に見おくべし、又
遊女の常によき衣裳を着て其さま貴人に見えずへさびしくいやなる心持有も右
藝人等に同じ意味也

又骨格に一談有たとへば衣服を身巾に庇しては立着しなからいつとなく両の手
の先長く出たるやうに見ゆるもの百是衣食に乏しきの相也

○骨格を以衣服の事を断ずるには財帛宮專一なるべし是財は金銀だから也帛は
衣服の事なれば也又見合血色に有べし
肩有て着ざといふ事なく口有て食せずといふ事なし是肩の相又衣服を断ずるの
要なるべし

次に住所の事住所は面部陰陽さかひに見るべき事兼て傳の如くたれども其本を
知らされは血色を見るにもあやふみ有故に今其陰陽さかひは何故に住所の事を
司ると云本原をいふべし夫一身の体は肉にして上に応ず故に先面部惣たいを土
地也とおもうべし其中に眼有鼻有耳有眉有口有是れを何れも状体にかたどる状
体すなわち面部の地面に住其目や鼻や口や面に付属の付際即ち陰陽さかひぬ也
○是陰陽さかひの住所にかゝわる義理を知るべき處也さて目や鼻の状体住する
所は面一たいの地面その地面と状体の目鼻口の付際の處肉合と血色の気味あひ
にて住所のすわるとすわらぬとを見るへしかくの如く時は甚六ヶ敷やうなれと

も畢竟目のすわり田宅の肉合すわりて見ゆれば住所も又すわりよろしく鼻の付
方よくすわりて見ゆれば住所もよくすわりて動ず其外口且眉とも此理にてた
ゝすわりよろしきは住所のすわりもよろしきとをもうべし但し石に云陰陽さか
ひの理を説されば骨格血色ともにかひ方分明ならざる故説事よく可味又
たとへば天部豊かに見ゆる者は親の譲り多き也しかるに右に云五つこの物目鼻
等よろしからざる時はたとひゆづりを受てり自身より破りてたもつ事あたわす
家を破る相也とす是にて五つ物は状体にして一たいの骨肉は土地に配する事を
知るべし又眼は我精神のひらく處鼻は我呼吸をたもつ處且三才の中人の部にし
て状体にかたとる口は食し言ひ日用我出納の根本眉は我血気の發する處耳は賢
の出店にして天地の高をたもち他の声音を受入るゝの何れか状にあらざらん
是を推して以人の相を断ず何事か辨せざらん
又云右傳を以按るに肉の付處の者は骨也故に骨は居處也肉は我也住所縁薄きも
のへおのつから肉合しまらざる事を知るべし
○さて骨格にて住所のすわるへすわらざるを見る事は右に云如しよつて又當時
血色のすわる動くの気味あひを工夫すべし

○此處血色氣あひを見る事悉く手に入る時は一切住處の動き又火災其外住所にかゝわる事みな是を掌中に見るが如くなるべし
 又云火難の事は水火の理にて火氣高ふりて水を尅し火難に遇ふものなり火難を見る事往々秘傳にすといへとも相法に於ては別に口傳も秘傳も穴所も何も六ヶ敷事なし此段よく合点して觀相すべき也さて水を尅すとは相法に於ていか
 にとへいふに常に云如く面相に水を司る所有海角法令眼耳等是也此處火難に遇ふ前には自然と枯乾くの色をあらわすべし火氣をのつから高ぶる故也是水を尅すといふ能々氣を付て見るべし病色と見違ふ事有初心は尚々危し慎て手に入る事を工夫すべし

次に食の革命は食に有といへは尤大切の事しかし食なければ一日も生る事あたわす故に食盡るの相をあらわすは命の終りと知るべし命終る時は着有といへとも食する事あたわす故に死する前には必食する事ならぬ相を顯すべしたとへ急難に依て死する人たりとも長病に死する人なりとも食有て命なきものはなく命なくして食すると云ものなし故に同じく食盡るの相をあらわすべし
 又右急難の事能々ためし見るべし人有大いに怒りいきどほりを發し事を破り人

を害せむとをもう時寐食をだにをもうのひまなし思ち妻子ををかえり見ず必死を極む故に其相逆上して血氣は毛髮命宮のあわひたのみへつよく下部神説して海角枯乾き喉のはたらき忽ち常に爰す是食喉口の相を見て命をすてむとするの意味を知るべし命は食に有の理必然なるべし

○又右に云食盡ると云相は大海の氣あひぬけて枯るが如く赤さびしく見ゆると心得へし若又十日のうちに死すると定る時は其人の食縁の屬神經のばたらきを夫ひて動かさるもの也口傳又大病の前も其兆し右に準して知るべし

但大病の兆しを見定る事別に辨有今其見合となるべき大切の屬をいふへし是は前に云如く海角の氣合さびしく見えて毛髮しほるゝが如く天部より髮際へかけて何となくさびしく毛孔さうけ立て見ゆるは疑ひもなく大病の兆也知らすむは有へからず衣食住の理を以人の壽夭食福を見る事尤肝要にして第一に相家の大本とすべき事也其経験したるもの一二を擧て刑極の罪人馬上に引れて刑殺の場にをむむく時其人の面体何れる陰陽のさかい悉く肉うかみて精神守らす氣合ぬけてへぼんやりとむくみ腫たる人の如く見ゆる也是眼前に今死するの相 知らすんは有べからず今日生まれし兎の産因のおちぬ時の如し

○石出納宮相見常法は上下唇いかにも手厚くして開闔ゆるやかたひらく時滯なく開る時欠透なく氣をはく事ゆつたりと見ゆる意味也肝要に心付て見るへし是大人の相貴人の相也福人相也長壽の相也
口の相うるわしく見ゆるものは美食に縁有又福分も相応に有といへとも是上相也唇悪しきは上相に非るなり

自己を相する秘傳

豈も運命指導の任に當るもの「易者身上知らず」のそしりを買はざる様、陰徳を積み身を修める事專一とすべきは勿論、相法の妙理に依り天機を知るべく自己觀法を心得なければならぬ

先づ自己を相せんと欲せば、魂神を氣海に満し東方に向つて熟座して眼を塞じ、無念無想にして色脈の環を待つ時は吉凶禍福の主る部自然と動く、其時釣鏡に向ひ自相すべし

肉動く様に覺ゆる時は萬事發起する相で、左の方は希望の通達の相、右の方は一時良好なるも未遂げず、又カユキ時は心配事の埒あく相で必ず隆の援助者のある相、カユキ跡のひりつくは災ひ来る相、皮のひき張るのは争があるとか人の世話争の掛つて来る相、俗に腫はつたいと云ふ様に感ずるのは山事来るか散財の相

陽氣發する如く感ずる時は吉事未る、心中自然と淋しく憤へ体も陰に成る時は散財有り又外より凶事且苦勞の事未る。

六四

姿は陰なれども聲陽なる時は吉事未る前兆である、しかし顔も聲も陽なる時は妨有り、又顔も聲も陰なる時は心破るゝなり。

相者はよろしく右の觀法を應用して自相し凶事を未然に防ぎ猶轉じては福を亨くべく努力する事が肝要である、相者の主治は人の軌範たるべからざるが故である。

神秘十指觀法

人間の十六感情即ち喜怒哀思憂思畏思欲思望思を手の十指に讀まうとするのが、この神秘十指觀法であつて、風鑑第一の秘術である。

先づ人の現在の氣を察し様としたならば、被占者の両手を自然のままにて力を入れず出させ、心を收めて先方の息を此方へ深く引込む時は思はず知らず差出した手指の内一指がしきりに動くもので、それに依つて左の如く判断出来るわけであります。

- | | | | |
|-----|------|------|---|
| 右の | 中指の | 動くのは | 凶 |
| 食指の | 動くのは | 怒 | |
| 中指の | 動くのは | 受 | |
| 薬指の | 動くのは | 望 | |
| 小指の | 動くのは | 思 | |
| 左の | 中指の | 動くのは | 喜 |
| 食指の | 動くのは | 怒 | |
| 中指の | 動くのは | 憂 | |
| 薬指の | 動くのは | 思 | |
| 小指の | 動くのは | 哀 | |

右は秘中の秘にして奇中する事大である。

六五

奥儀車人形之傳

奥儀車人形之傳は予の四十年間の實驗生活に依る苦究の賜にして、創見後十有余年に至る、其間人を相する事幾萬、實に萬に一失なき神法たるを誇るものである。

古未相法と稱すれば、その個性と運の推移に依り、その執るべき方針を示し人生上過失なき結果を興ふる事を以て理想とすると虽も、それは鑑定者の常識的類推に依るものであつて、眞に天意を語るものに非ず、故に類推力のすぐれた者の判定たりとも天来の声と信ずる事を得なかつた事は遺憾とする處である。然るに予の創見になる車人形の秘法は觀相の妙理を深遠なる易理を以て解し、被占者を一見したゞけて現在の想ひを知り、その因つて来る處を悟り、その行くべき道を明確に指示し、天意の妙を會得し神人合一の絶対境に至るものであつて、眞に濟世救民の神法たる價值を有するものである。

車人形鑑定眞訣

予は前巻に於て車人形の要訣を若干述ぶる處があつたが、本巻に於いては特にその詳細に就いて語る事にする。

車人形の秘法を用ふるに際して先づ陰面陽面に就き記す必要がある。

人は父なる男性と母なる女性との間に主を得たる以上、幾分かの男性味と幾分かの女性味を有する事は單に生理的現はれに止まらず精神的分野に於て特にその著しい事を知るものである。吾相法にては是を以て男性たりともその精神形貌に女性的色彩強きものは陰面と稱し、女性たりとも男性的な色彩を有するものは陽面と稱し、其判断の基礎を定むるのを持長とする、世の觀相家のよく判定を誤るのは此微妙の理を悟らざるの結果なる場合が非常に多い。

陽面は之れを後天之卦に配し、陰面は先天之卦に配す、猶全面八卦に配する

外、鼻を艮と定め、耳を坎と定め、眼を離と定め、口を兌と定む

以上の予備知識を得れば次に血色の卦に取りようなり

△兌、乾は白色なれど兌は薄紅を若干帯ぶ

△離は赤色なり

△震、巽は青色なり

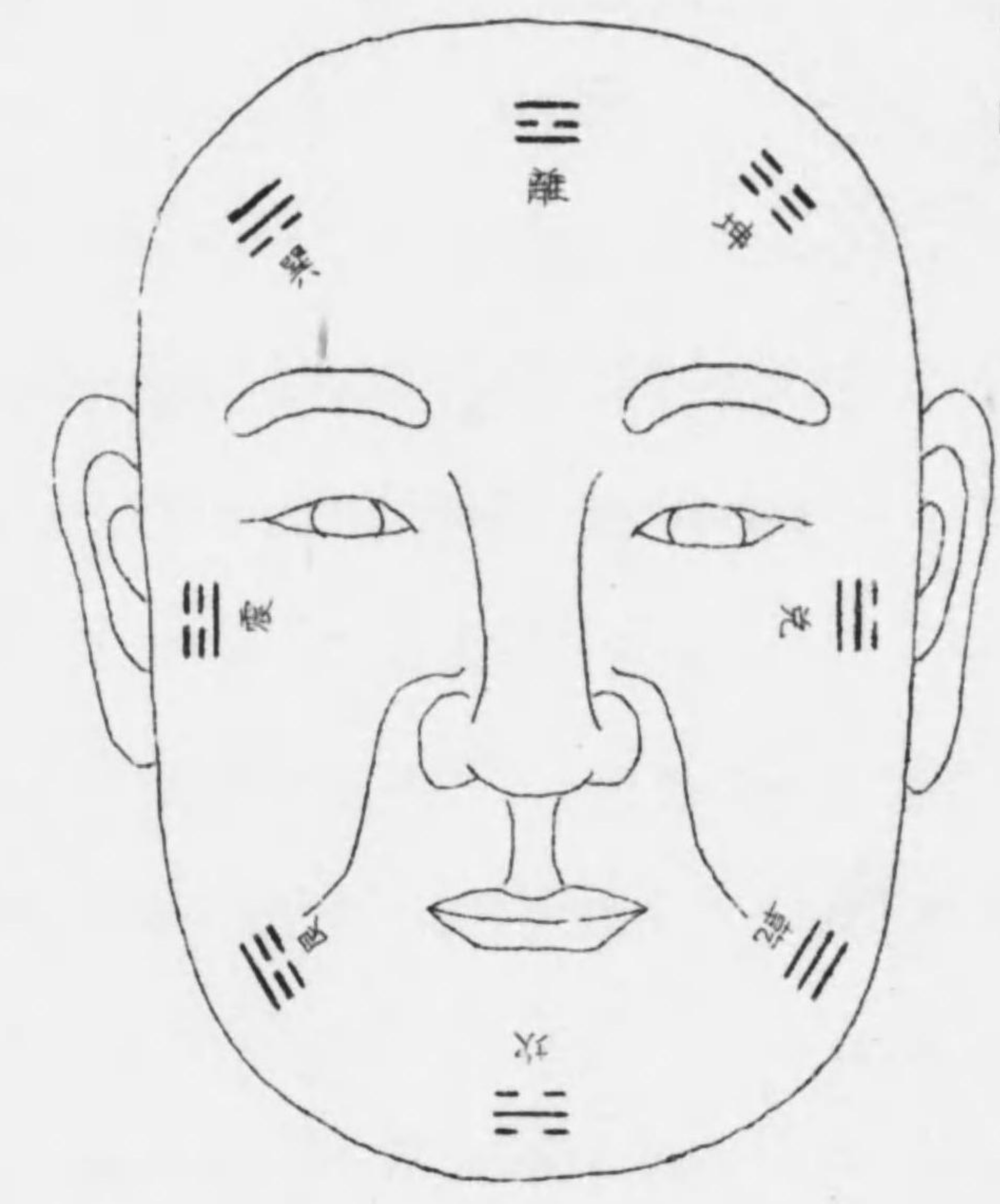
△坎は黒色なり

△艮、坤は黄色なるも坤は若干黒味を帯ぶ

以上の面部卦と血色卦とを一つにして大成の卦となす、猶爻の取り様には直接口候を要するものなり、(未訪の上直接聴かれん事を希望す)

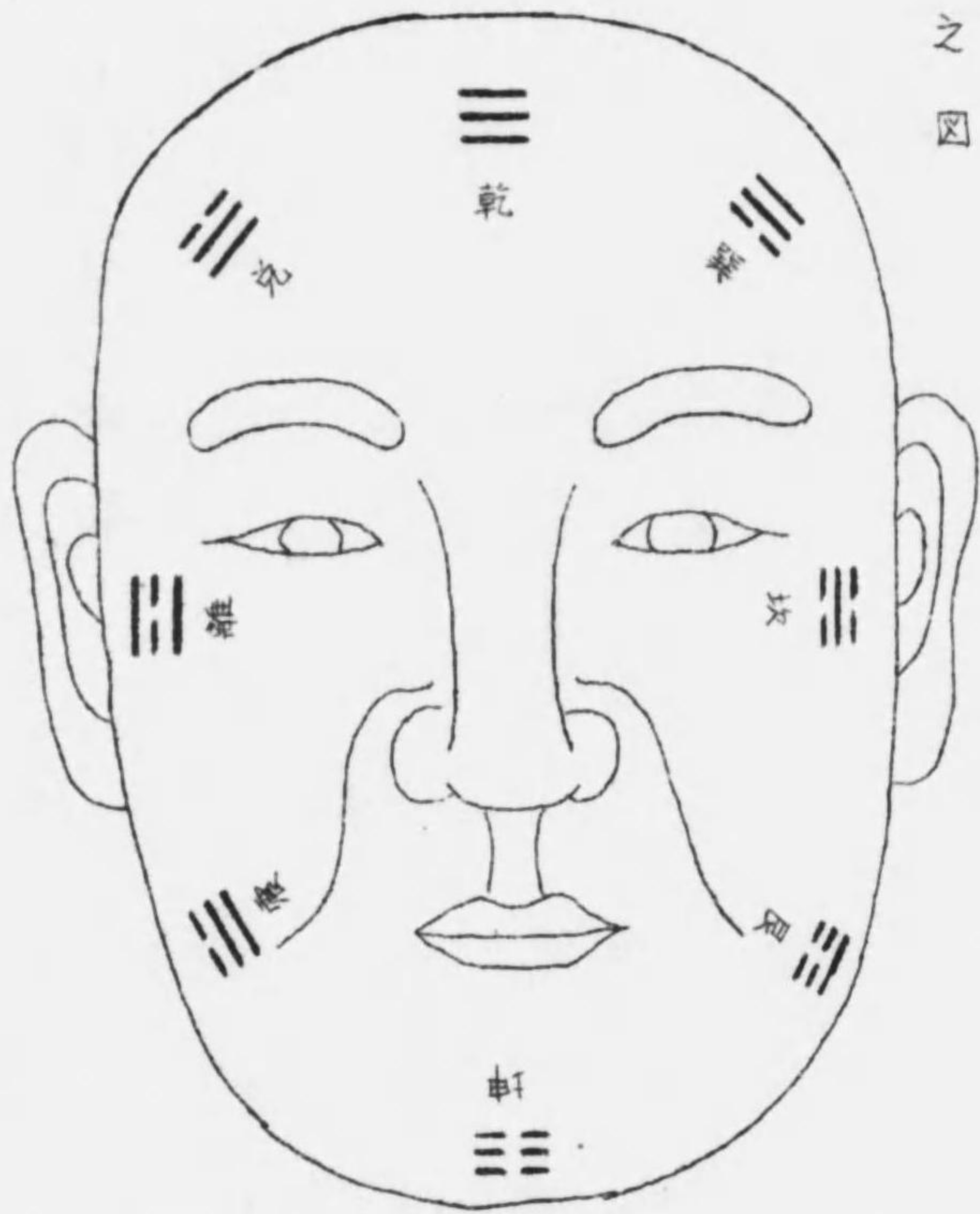
次に余の讀者に告げんとする一事は、後章六十四卦心意解と如上の原理を究むるに於て眞に相法の極意に透徹し得ると云ふ事である、猶進んでは易の原理を究めその妙用を体得するに至れば判断の妙、實に天地の機微を擲める如くなるべし、余が好んで実験を多く掲げ諸士に暗示したるは、体得の妙を得さしめんが爲めである、

後天之図



面陽

先天之圖



面陰

七〇

六十四卦心意解

☰☰ 乾為天

現在より段々悪くなる運氣、目上の氣遣ひ氣兼や金錢上の悩み等あり、但し貴人は此相ありとも差支へなし

(例) 或る時三十四五と思はる、青年未りて親相を乞ふ、看るに相貌完全にして眉と云ひ鼻と云ひ非なる處なし、それを以て其れを乾為天となす、而して断じて曰く、「貴殿を相するに生家は相当の家ならんも、貴殿の台より衰頹に及び、漸次面白からす」と、その青年答へて、「実にその通りなり、今迄多くの相士を訪へるも皆吾が相を良しとするも、事實は先生の判断の如し」と、予今彼の方針を指示し開運満相の道を説いて戻せり。

☳☳ 天風始

七一

女一人にて男五人に對するの象、色情の争ひあり、又男は女に付き苦勞ありて、何となく落付きなし、金銭上の悩みあり、目上の人と融和せず、心身のさだまり歎き象

天 山 遯

住所の苦勞甚しくおきる、又身を退くか、煥達よりのがれんとする心ある象
(例) 三十四歳の男子来りて、相鑑を乞ふ、看るに、艮線に白点あり、故に断じて、「貴戚は今人より斯くせよと進められてゐる事あらん、こかれどるその相談に應ぜず考へ居る相なり、此れは應じて吉也」と、客その的中に驚嘆せり

天 地 否

四方ふさがりたる様にて甚だ苦しむ、又目上の人にてたてつき苦勞あり、されと末に運ひらく、何事も苦從して幸要未る時を心静かに待つべし

天 澤 履

女の裸になつた象にて、色情の過ちあり、危険を冒して事を為すと云、礼儀を守つて忍耐すれば遂に望みを達するべし

天 雷 无 妄

偶然性に支配され易き時なり、心身落着かず、焦燥な嫌ひあり、何事に依らず成行きを静観すべき時なり

天 水 訟

訴訟事件或ひは甚だしき争あるの象也、先方便剛なる為自己の難事あるのかたち也

(例) 某氏を相するに天中より黒氣下り眉頭に至る、是を天水訟に取る、余曰く、「貴下の相を看るに訴訟問題起り現在大いに難む病あらんと、某氏大いに驚き、実にその通りなり、その取るべき方法如何と、余曰く、「誠を以てせ

これに對せば、示談となり田滿解決を得べし」と、後日其客来りてその酌中を告げ大いに感謝する爲ありたり

☲☲ 天火同人

運氣隆盛の象、人と共同して事をなすに吉、何事にも思ひ切つてなすを良しとするも争論を避くべし

☱☲ 兌為澤

他愛なき争ひあり、色情の悦びあり、思想定まらず何となくそわ／＼した處あり、又兌は悦びの卦なれば目出度き事に遭ふ相也

☵☵ 澤水困

大いに困窮の卦なり、とりわけ金銭上の勞苦甚し
(例) 或る人来りて相鑑を乞ふに骸骨懸珠、故に此を断するに、「現時大いに困窮せるの相也動くに動かれず、居るに居られぬ様な工合にて如何とも思案の

つき兼ねる相也」と、其客曰く、「実にその判断の如く、家賃の没滞から立退を命ぜられておりますが、その家を出ては行く處もなく困りはて、おります」余曰く「何事も時運に恵まれざる爲めなるも今年三月より漸次良い方に向ふ故それまでは誠を披歴して延期を頼んだ方がよろしいでせう」と、客喜びて去り

☱☷ 澤地萃

趣味の高めに心虜る、事あり、又表を飾り内実空虚なる象あり、人の出入多く収入少なきかたちなり

☱☶ 澤山咸

男の女より慕はる、象也、又男女交合の意あり、人の援助ありて総て順調に運ぶの象なり

(例) 一婦人より病氣の判断を乞る、に、其相、鼻頭に白色あり、故にそれを断するに、「是病氣に非ず妊娠なり」と断す、歸路に医を訪へるに正しく妊

澤火革

事を改めるの象、細心にして大膽なれば大いに吉事を招く。又色情のもつれ
身上の氣づかひ等あり

(例) 昭和九年十月三十日横濱より廿五才の婦人乘りて鑑相を乞ふ。看るに時
々二本の筋腹に顯る。故に是をとる。「貴女は今夫と別れんとする氣概なる
も、そうした事は人倫の道に反したる事にて大に凶し」と云ふに、其女性大い
に驚き「實にその通りにて、現在先妻の子との折合悪しく、為めに家内面白か
らず一日も早く夫と別れ度き意なり」と云ふ。予その不心得を深くいましめて
歸す

澤風大過

心をもつて身を苦しむるの象、物に後悔するか、了見違ひの行動をとりて落
着かざるのかたち也

澤雷隨

目上に救はるゝ意あり、心身定まらざる意もあり、又居所落着かざる象なり

澤天夬

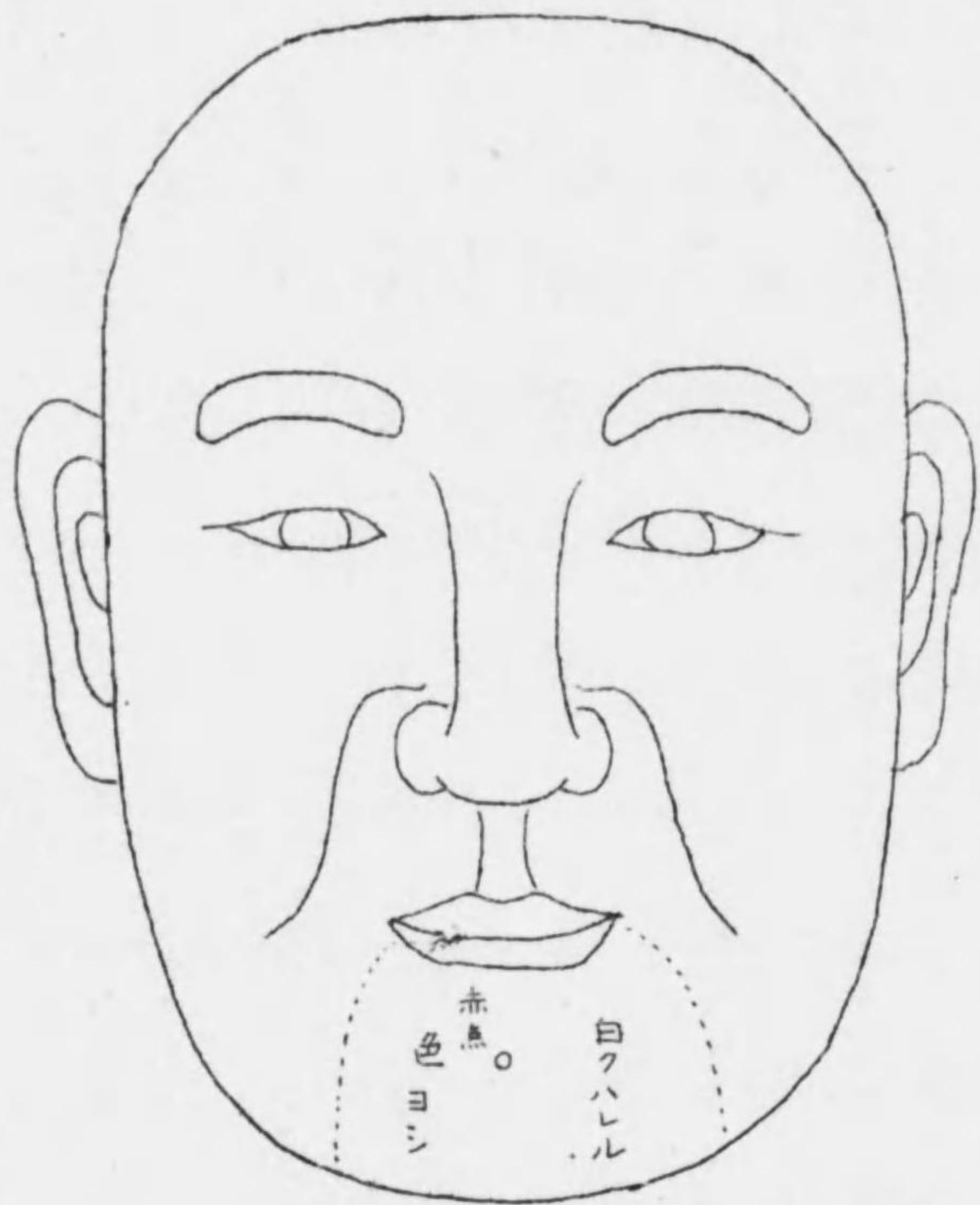
心中に一人計画する勢あり、又人を疑ひねたむ心あり、腹立あり、願ひ望み
ごと叶ひかねて苦しみ多し、證書類の迷惑等かゝる事あり

離為火

親しき者と離れるとか、住所の変わる事等あり、又火難等にも注意を要す

(例) 昭和九年十一月廿四日三十二才の藝者来りて相鑑を乞ふ。看るに図の如
く地崗に薄紅色の疣ありて色艶好し、又それを囲みて、地崗全体曰くはれる
余曰く、「貴女は今迄の家を去りて他へ移るの相あり、又是り付きて二のつく
敷の金が手に入るならん。例へば二十四とか二万四とかです、貴方はそれに対
して不足でも納まつた方が後ちに良しうと。客曰く、「よく的りまし

注意 薄紅色のイボ色よし家に付き喜び有る相



た、私は新橋の喜利家の藝者ですが此の度家を赤坂仲之町へ持たして呉れる人がありまして金を二十田出してくれる約束が出来ました但其金は明廿二日に手に入りませうかし、予曰く「多分明日ですが遅れ、ば廿七日に入りませう」と其後同人のまりて曰く「廿七日に金が入り赤坂仲之町一番地へ家を持ちました」と深く礼を述べて戻る、

火山旅

思案定まらず、住所の苦勞甚だし、又旅行の志あれども心持はかりたして動きがたし、心細き散財続きて面白からざる象、

火風鼎

證文書付けの事、金銭上の事等にて争ひ事あり、又物の改まる事、物の極まる事等あり、三人寄りて相談する等の意あり

火水未濟

事而起したき意あれども決せざるの象、住所等にも苦勞あるの象也
 (例) 或日四十八才になる婦人来りて鑑相を乞ふ、看るに天恃艶好く地格暗蒙
 なり、故に此を断ず、「貴女は現在の住所を改め衰りて人と協同して新規の事
 を為さる様なるが大吉なり」と、客曰く「實は或る人と協同して待合を始め度
 く思つておりますが、宜敷いでせうか」、余曰く「宜敷い」と断す。

八〇

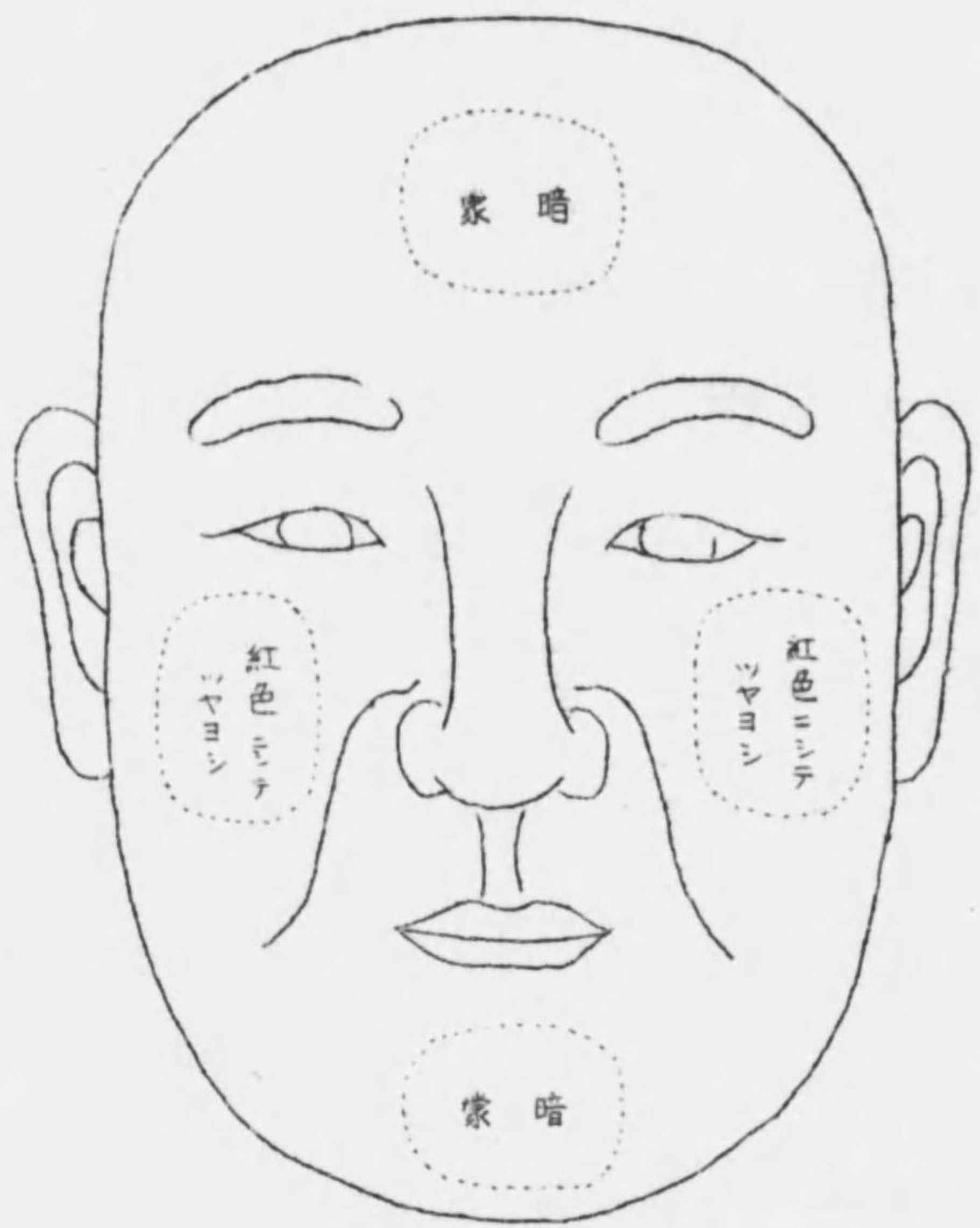
☲☷ 火地 晋

目的に向つて積極的に進まんとする意あり大いに宜し、女人にせき立てられ
 て事を遂ぐ象あり

☲☰ 火天 大有

表てむき人の見つきは宜しけれど内実苦しき象、女の厄介を引き受けて苦勞
 あり、又物事よく進む様にかえて進まざる意あり。

☲☱ 火澤 睽



八一

色情あり、女二人して争ふの象、金銭の苦勞、散財のある意あり。
(例) 四十才の女人来りて鑑定を乞ふ、着るに赭赤くして艶なし、故に断じて曰く「貴女は當時思つた事一つも成らず、其上娘さんの争で御心配が有りませう」客曰く「左様です娘が廿四才で未だ縁談が無いので愚痴計り云ふて困つて居ります」余曰く「又今は金もなく住所にも安心出来な相ですが、今年は春秋二季に娘さんの良縁があり、その頃には住所の心配もなくなりませう故それまで御待ち下さい」と、客喜びて戻る。

☲☳ 火雷 噬嗑

腹立ち怒る心あり、胸に思ひ下ら云ひ出し兼ねてゐる事あるも云ひ出したが吉、すべてもの静かならず落着かさる意がある。

☳☳ 震 為 雷

おとろきあやふみ、急がしくさわがしき心あり、普請修葺したき意あり、電報電話のかゝる意あり。

☳☷ 雷 地 豫

物さわがしく落着きなき象、住所の苦勞甚だあり、事の様子ばかり良好にみえて遂げがたい意がある。

☳☵ 雷 水 解

思案さだまらず、苦勞あれども近く悦みの解ける意あり、油断あるときは氣力を失ふることあり注意。

☳☴ 雷 風 恒

萬事旧を守り新規にする事総て見合すべし、住所の苦勞あり、酒興等にふける意あり、結婚の象あり。
(例) 或る青年を相するに、辺地より眉の中央に青色至る、余断じて曰く、「貴下の相を看るに田舎より近頃結婚問題に付き音信ありたるならん」と、客曰く「田舎の父母より昨日その事に付き手紙が来ましたが如何でせう」と、余曰く

「進んで言なり」と

☳☰ 雷天大壯

前途の見通がつかず悩めるの象。親類に合力するか、人に羨望づくにてものを貸すかする意あり。

☳☱ 雷山小過

他人に気兼ねし、物に遠慮勝ちの意あり。過失多くありて苦勞絶えざる象なり。色情の過ち主じ易き意あり。

☳☱ 雷澤歸妹

障子一重外にあるものを内へ入がたきといふやふ也。色情の事あれども未遂げず心身おだやかならず。又間違ひたりはづれたり思ひがけなきもの入り有る象也。

☳☲ 雷火豊

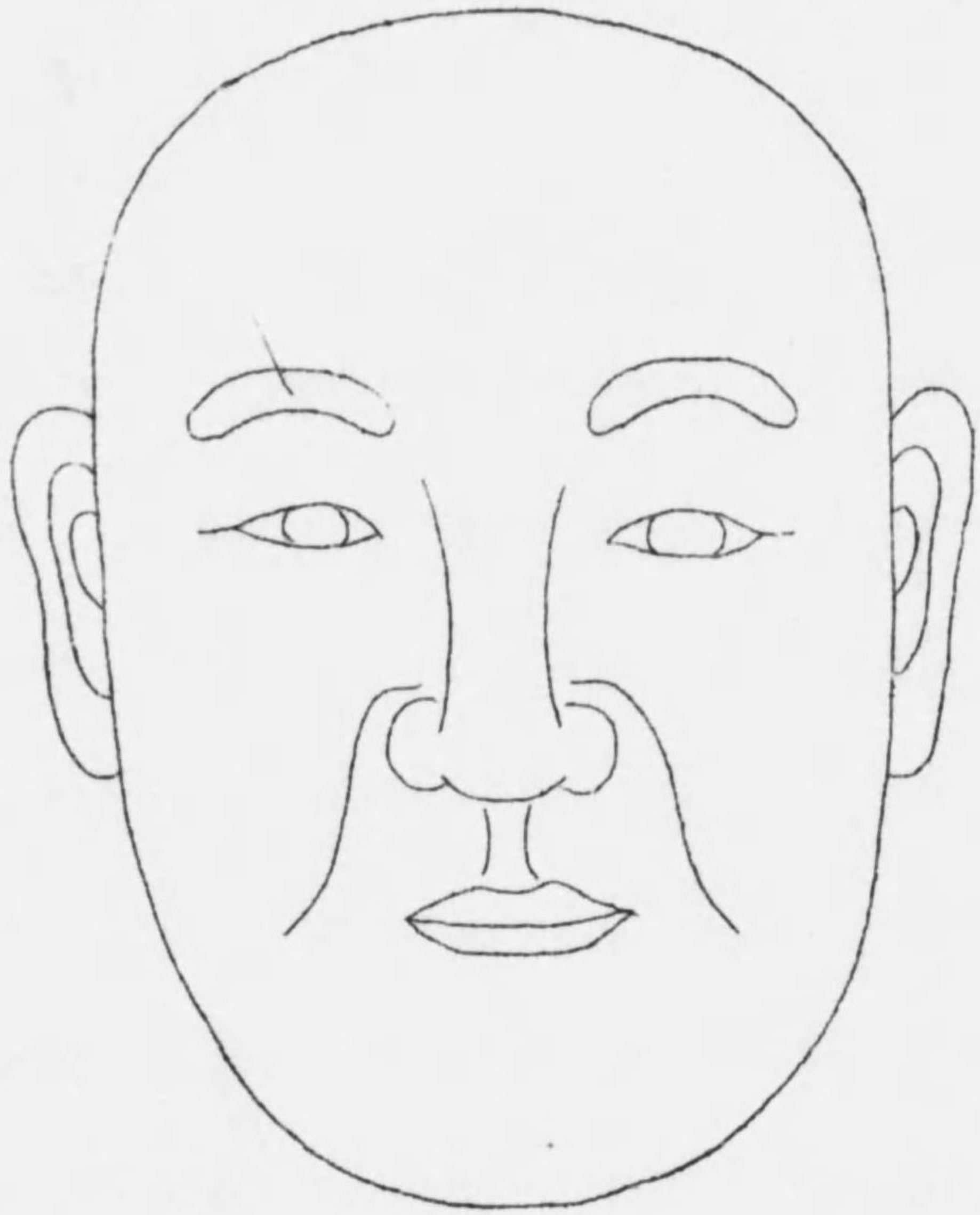
外面ばかりにて内実のともなわざる意あり。手に入るべきその入り兼ねる象也。

☳☴ 巽為風

心身定まらず物さわがしき象。人の出入多き象。目上の人の障けに遣ふ意あり。住所の苦勞あり。

(例) 四十五才の男子来りて相鑑を乞ふ。予それを見るに面部全体黒アバタが光るのみにて血色をみず。只一本の眉毛が持に長く鬚に向ひて立ち居たり。それを取る。「貴殿の家一人の者入り来りて一家和合せ古のみ有りて困り居るならん。早く此の者を家より出して去。永く置くと後悔する様な凶事有り」と断す。客曰く「よく的中致しました私一人の娘が有りまして他より養子を買ひましたが、それから一家に波瀾が絶えず如何にせんと思ひ本日伺つたのですが、何も不慮してかく的中するとは驚くの外ありません」と深く謝し歸る

注意 石の眉一本立つ。全貌アバタなり



☰ 風天小蓄

胸に一物ふくみたる形なり。ものをいみ嫌ひ人の気がね苦しみあり。妻夫を凌ぎて風波あるの象。

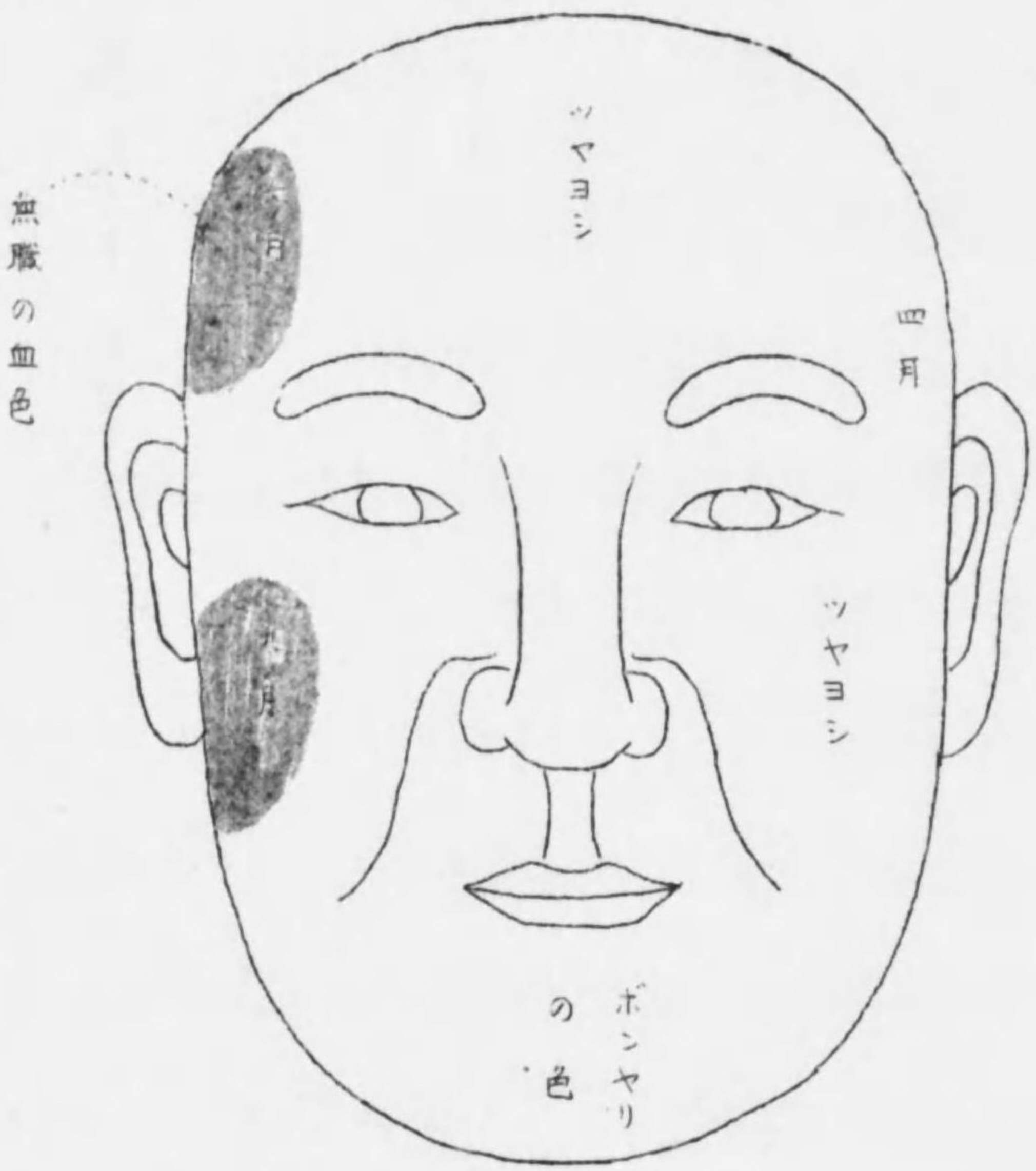
☲ 風火家人

家に人の増しへりある象。物を求めたき心あるか願ひ望みごと等あれど。手間どりて叶ふに至る象。

☳ 風雷益

任所につき動きたき意あり。又思ふ事実行に移して利あり。遠方より相談事ある意あり。

(例) 昭和九年十二月廿六日五十三才に在る男子未りて親相を乞ふ。看るに図の如し。故に断じて曰く、「貴殿は當時遠方より何か話しが有りましやうが利益がありさうで駄目です。又貴殿には現在一定の職業がないでせう」と、客曰



く「先生の仰せの如く當時自分は無職で毎日遊んで東株を火々究めておりま
すが、何時になつたら適當な業に有りつくでせうか又今遠方から来てゐる話
断る事に致しませう」と、予曰く「未年は四月七月九月が凶で拾月が宜敷く、
二月か三月に良い話しがあり遅くも五月には必ず職業が出来て安心となりま
す」と、大的中

☱☵ 風水渙

遠方の人との交渉あり、舟の縁あり、希望は多火手間どれど叶ふべし、絶て
候をおつて事を遂げる意あり

☴☷ 風地親

相談事あるの象也、目上をしのぶこゝろあり、親類か親しき人の援助により
運明く事ある意あり

☴☱ 風澤中孚

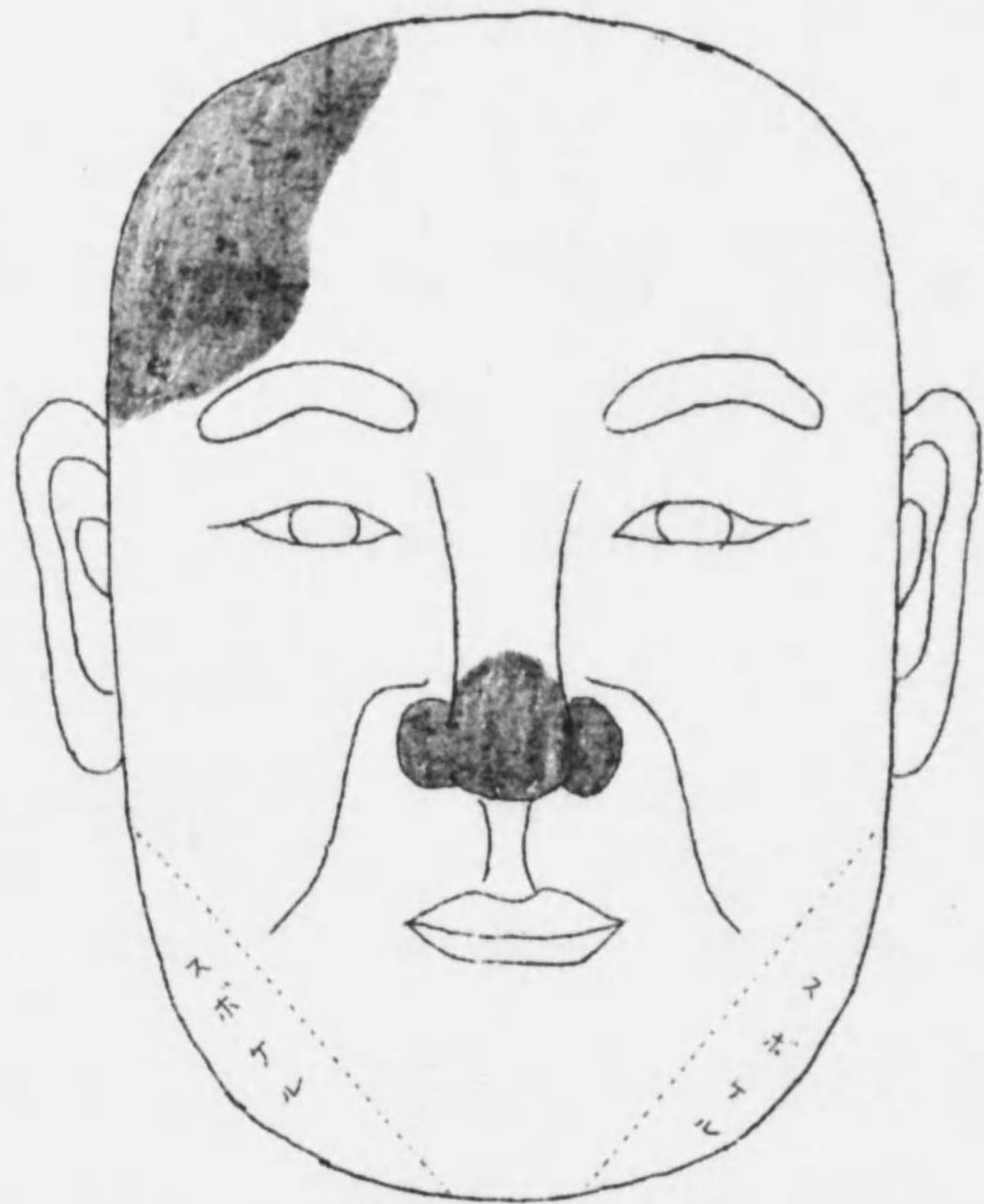
女性懐妊の象、舟のかたちあり、人の世話事あり、遠方からの相談事等あり
女性につき心遣ひあり。

九〇

䷛ 風山漸

男より女を慕ふ象、物事思慮深ければ未遂げて吉也、旅立の心動く、人より
相談を受くる意あり。

(例) 或る人を相するに図の如く鼻頭並びに辺地の辺に薄暗色あり、故にそれを
断ず、「貴殿の相は取引營業上にて一大失敗あるの相なり、故に他より申し
未る事を引受けては大凶也、其者必ず口先計りにて実行出来ざるが故也」と、
客曰く「私の信じてゐる人から材木を送るから賣捌いて貰ひ度い、さうすれば
一割を呈すとの交渉を受けつつあり」と、予曰く「絶対不可なり」と、其後内
聞するに其男子の言を信せず、大損夫をなせしと、彼の男の不信の厄もさる事
下ら、予の徳の至らざるを淋しく思ひぬ。





坎為水

二人して難むの象、水の流れの定まらざる意にて、確定せる業なき者、住居の落着かざる者の意あり、水に縁ある象



水澤節

・ 謔言に逢ふの象、総て時節来るを待つべし進めば坎難に陥るべし、吝嗇にて人の不評を買ふことあり



水雷屯

進まんとして進まれざるの象、思想定まらず焦燥の氣昂まり落着かざる意あり、身体の健康に特に注意を要す



水火既濟

今迄の事終局を告げる意あり、而して新規の事始まる意あり、色情の悩みあり



るの象あり、ものこみちかけある意あり

(例) 廿七才の女性相繼をこふ、看るに図の如し、故に之を断す、「貴女は是迄の縁が破れる相です」と、客曰く「ハイ結婚生活に破縁を来して此度離別致しました但未だに籍を返さず困って居りますすが籍を返すのは何月でせうか、それを看て貰ひに来ました」と、予曰く「貴女は四月より五月六月七月八月迄は悪しき月にて九月に至りて籍も返り貴女の一身上も解決して安心を得るでせう」と、その後その奇中を告げに来れり

水風井

つるべの繩の切れたる如く考へてよし、物のたよりを失ひ、心身定まらず夫業者の心持ちなり、秘密に人に相談する意あり

水天需

待つ意あり、求むる意あるも、のびく／＼にちりて仲まらち明かぬ象あり
(例) 四十二才の婦人来りて觀相をこふ、看るに準頭に白氣ありて山根紫色あり

り、故に之にて断ず、「貴女の夫は今、何にか持ち求めてゐるが其事は未だ時期至らずして出来ません、思ひ諦めて他に力をそ、ぐべきです」と、客曰く「実にその通りです」と驚嘆して戻れり

水地比

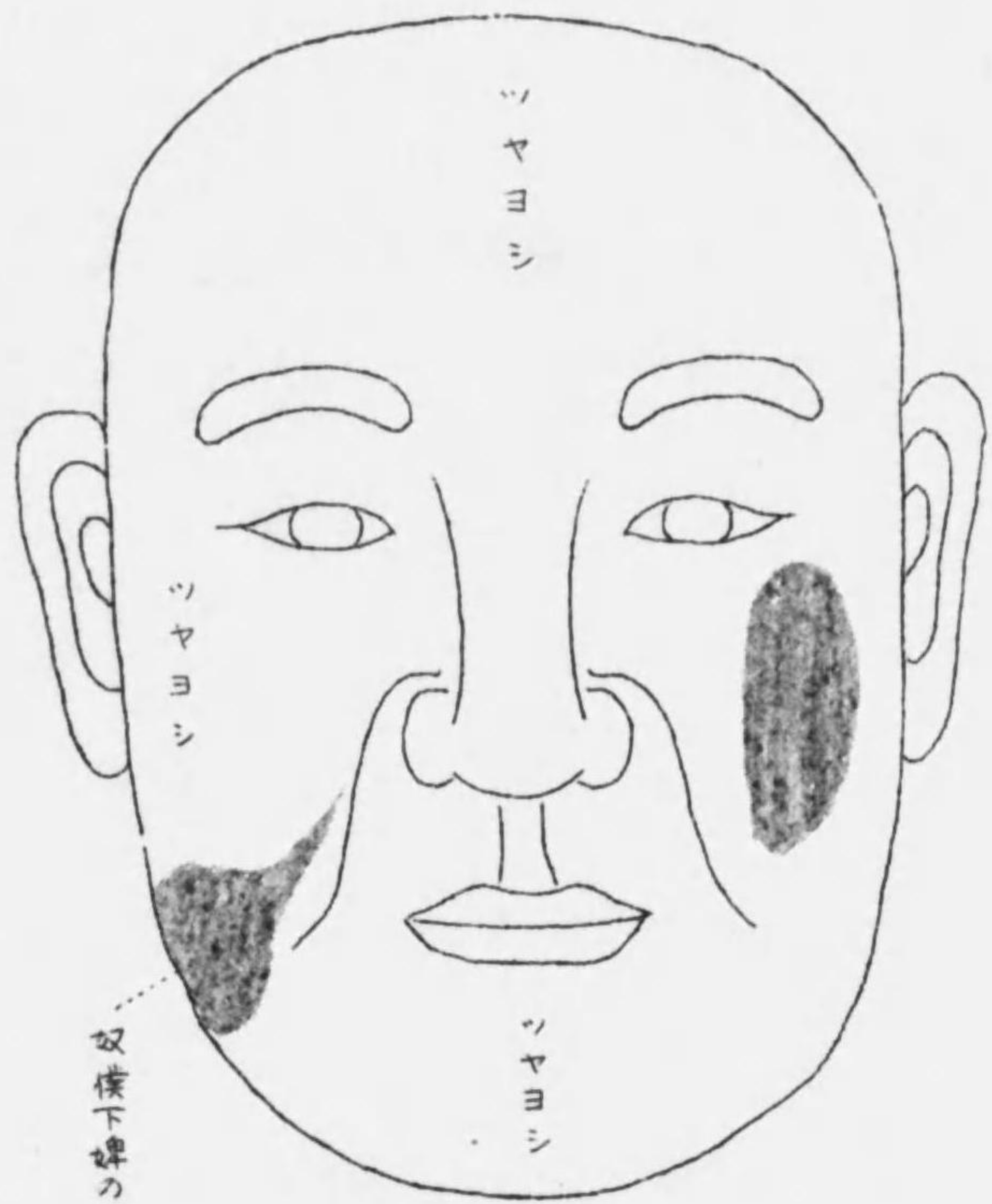
大いによし北東より吉事ある意あり、相談事調ふ意あり、人と親しむの象、住所につき火し苦勞あり

水山蹇

島事心にまかせぬ事多し、引くにも進むにも身体の自在を失ひたる象、住所のなやみあり

艮為山

一つの山を越せば又一つの山にあふ象、責任等の重なる意あり、思案二つになりて進退決せざる意あり、損失あり



(例) 五十才位の女子来りて親相を乞ふ、看るに図の如し、故に断じて曰く、貴女は當時悪い召使の爲めに大損する相あり、早く今の召使を出された方が宜敷い、又家屋が二軒有るが、それに就いても心配あるべし」と、客曰く「仰の如く家屋が二軒有りましたして貸しておりますが雇人の爲めに家賃を着服されて困つております」と、余それにつき前途の方針につき詳細指示し戻せり

☶☲ 山火貴

心にはげみあり、古きものを新らしくみせかけたる意あり、願ひ望みことあり、前途の見通しが出来てゐる様で思ふ様に行かざる意あり

☶☳ 山天大畜

甚だしき苦勞胸にせまることあり、金錢の苦勞あり、住所やすからざる意有

☶☱ 山澤損

世話苦勞する事多し、すべて義理づくのもの入多し、物を損する事あり、し

かし扱は益に通ずるところあり



山雷頤

親類か親しきものを哀れみ養ふ事あり 目下の者に意見など言ひたき意あり 自分の腹にある事を全部さらけ出せば事調ふ象あり



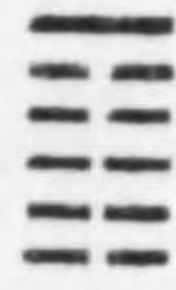
山風蠱

ねたみねにまれ争ひこつれあり、小瑕疵より大事を破ることあり、住所を失ふ意あり



山水蒙

前途蒙昧にして見通しのつかぬ象、ものごとさだまりがたく落着かざる意あり



山地剝

のぼりつめて落つるの象、我一人上に立つて大ぜいを養ふ理もあり、又大ぜ

注意 眼の下黒きは不陰徳なり



いにして物を教へる意あり

(例) 或る人相鑑を乞ふ。看るに凶の如し。故に断す。「貴殿は今の業を継続すれば重荷に重荷が重なる如くにて漸次落判する相なり早く業を改めて言たり」と。客曰く「事実その如くにて困り窮して居ります。最早私には運がないのでせうか」。予曰く「今が一生の内の最大の難儀の時にて今の困難も昔語りになる時があります。本年は八月からや、良く四十一才より運氣隆盛に至る相であります」と。客大いに謝して戻る。



坤為地

人の世話事多くする事あり。住所の吾勞金錢の世話等ある意あり。地所につき相談等ある意もあり。



地雷復

行きて又戻り歸る意あり。金銭を持ちあるく意あり。賣品再び手に戻るの象。朋の来りて助くることあり。

(例) 予が門人中村文應、美松デパートにて運命學文祿展を開きし折り、出品書籍教点を盗難に遭へり。中村氏目相するに盗賊の部位に薄暗の気色歴然たり他に悪色犯すことなし為めに獲にとる。それに依りて近く同書の戻るを察す。其後半月して神田松村書店に古本を漁りに行くに盗難書籍全部同店に賣却されてありたり。故にその場にて買戻せりと。



地澤臨

横合ひより嫉妬せられて苦勞あり。ひそかに色事あり。望み事たえざるの意なり。八月に至つて凶事あるの象。



地天泰

見掛けばかり良くて内実空虚なる象あり。家内和合して安泰を得る意あり。男女意を通じ合ふ意あり。



地山謙

男子裸身の象、目上をうやまひ、火々氣兼ねする意あり、後援者ありて大いに力になるべし、内に習識を蔽しなからんに従ふ象なり

☲☲ 地火明夷

自己の才智の世に認められざる時なり、迷ひ多し、退きて時機を待つべき時也、火災盜難等の意あり

☱☵ 地水師

剛情な人の意あり、争ひの家、計画ばかりにして実行のともなわざる意あり物の師範をする意あり

☴☳ 地風升

心身落着かざるの家、住所の苦勞あり、願望は度しき如くみえて仲々難かしき意あり、但し大に努力する處あれば終りに於て良し

觀相神通秘録奥義篇終

昭和十一年九月十五日印刷納本
昭和十一年九月二十日發行

(非賣品)

觀相神通秘録



不許複製

著作兼 發行人 玄龍子 目黒要太郎
東京市日本橋區通り二丁目三ノ三

印刷人 幅弓之助
東京市神田區三崎町二丁目一ノ一

印刷所 昭勝寫堂
東京市神田區三崎町電停前
電話九段(33)三八五六番

發行所 帝國相學院
東京市日本橋區通り二丁目三ノ三
振替東京一五〇三七番

終

